

TR-I-0301

言語データベース用格・係り受け関係属性付与基準

- 深層格編 -

Specifications of Semantics Relations
for ATR Dialogue Database
- for deep cases -

浦谷 則好

中村 久夫*

Noriyoshi Uratani

Hisao Nakamura

1993.2

概 要

ATR自動翻訳電話研究所では言語データベースの構築を進めてきた。言語データベースの各データには形態素情報、格・係り受け関係属性、日英対応の3種の情報が付与されている。すでに、格・係り受けの意味体系はテクニカルレポート(TR-I-0029)として、報告されているが、実際に格・係り受け関係属性の付与作業を進めてみると、当初の基準が不十分であったり、曖昧であったりしたことが判明した。そこで、現状に沿って、本稿であらためて格・係り受け関係の属性付与基準についてまとめておくことにする。

ATR自動翻訳電話研究所

ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

© (株) ATR自動翻訳電話研究所 1993

© 1993 ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

目次

1. はじめに	1
2. 格・係り受け関係のとらえ方	1
3. 格・係り受け関係詳細	2
[1]AGT (AGenT)	動作主 2
[2]UVA (UnVolitional Agent)	無意志動作主 3
[3]UVS (UnVolitional Subject)	無意志主体 4
[4]OBJ (OBJect)	対象 5
[5]EXP (EXPeriencer)	経験者 8
[6]REC (RECIpient)	受け手 10
[7]ORG (ORiGinator)	与え手 11
[8]PRT (PaRTner)	相手1 13
[9]ACC (ACCompanymenT)	随伴 15
[10]OPP (OPPonent)	相手2 16
[11]TMA (TiMe At)	時点 16
[12]TMF (TiMe From)	時、起点 18
[13]TMT (TiMe To)	時、終点 19
[14]TMD (TiMe Duration)	時、継続 19
[15]SPA (SPace At)	場所 20
[16]SPF (SPace From)	場所、起点 22
[17]SPT (SPace To)	場所、終点 24
[18]SPR (SPace thRough)	場所、通過 26
[19]SRC (SouRCe)	始状態 28
[20]GOA (GOAl)	終状態 29
[21]CAU (CAUSe)	原因、理由 30
[22]TOO (TOO1)	道具、手段 32
[23]MAT (MATerial)	材料、構成要素 34
[24]MAN (MANner)	様態、方式 35
[25]CND (CoNDition)	条件 37
[26]PRP (PuRPOse)	目的、用途 41
[27]ROL (ROLe)	役割 42
[28]RNG (RaNGe)	範囲規定 44

[29]DGR (DeGree)	程度、数量規定	46
[30]PRD (PReDicate)	陳述	49
[31]COR (COmpaRison)	比較の基準	54
[32]TOP (TOPic)	話題提示	55
[33]NOM (NOMination)	命名	57
[34]CON (CONtent)	内容	58
[35]EVA (EVALuation)	価値判断	61
[36]CNC (CoNCession)	譲歩	62
[37]ADD (ADDition)	追加	63
[38]CIR (CIRcumstance)	付帯状況	63
[39]VIE (VIEwpoint)	観点	64
[40]SEL (SELECTION)	選択	65
[41]EXM (EXAmple)	例示	65
[42]POS (POSSesor)	所有者	66
[43]AUT (AUThor)	作成者	67
[44]APP (APPOsition)	同格	68
[45]WHL (WHoLe)	全体	69
[46]PAR (PART)	部分	70
[47]REL (reference for RELation)	関係の基準	70
[48]DLM (DeLiMiter)	限定	72
[49]AVO (Attribute Value of Object)	対象属性値	74
[50]ATT (ATTribute)	属性	77
[51]OAT (Object of ATTribute)	属性対象	78
[52]VAL (attributive VALue)	属性値	80
[53]MES (METaphoral Substance)	比喩実体	80
[54]MET (METaphor)	比喩	81
[55]GAI (GAIkaku)	外格	81
[56]CMP (CoMPlementizer)	補文標識	83
[57]PMC (Pseudo-CoMPlementizer)	準補文標識	83
[58]INS (INSertion)	挿入	84
[59]PRL (PaRaLlel)	並列	85
[60]ORR (OR)	選言	86
[61]CNE (ConNEctive)	連接	87
[62]OTH (OTHers)	その他	88
参考文献		88

1. はじめに

A T R自動翻訳電話研究所では会話文の特徴を客観的かつ定量的に分析するために言語データベース（A T R対話データベース(ATR Dialogue Database)あるいは略してA D Dと呼ばれている）の構築を進めてきた^{[1], [2]}。集めた会話データには基本的な言語的分析を加えて、後の活用が容易になるようにしてある。基本的な分析とは形態素解析^[3]、翻訳あるいは通訳の結果に対する日英対応^{[4], [5]}、格・係り受け関係の付与を指すが、本報告は格・係り受け関係の付与に関するものである。格・係り受け関係の付与の考え方についてはすでにテクニカルレポートTR-I-0029^[6]に述べられているので、ここでは触れない。この報告は、実際の格・係り受け関係の付与作業の結果、問題となったものをまとめて、改めて付与基準を示すものである。

2. 格・係り受け関係のとらえ方

文献6と重複するが、簡単に格のとらえ方について触れる。従来から深層格は現実世界において同一の役割を担っているものに対して、同じ格を付与するという立場が主流である。例えば、下の(1)、(2)文に対して「窓」には[o b j]、「風」には[c a u s e]が付与されるというものである。

(1) 窓は風で開いた。

(2) 風が窓を開けた。

しかし、我々は発話者の把握の仕方を考慮したいということと、作業者の違いによる揺らぎを少なくしたいという理由から、(2)の文の「風」を[a g t]、「窓」を[o b j]とする立場をとっている。

また、構文上の修飾・被修飾関係については次の6通りに分類し、格・係り受けコード(意味コード)とともに格・係り受け関係に付与した。つまり、01が格関係、02~06が係り受け関係である。

- 01 述語と格要素との関係
- 02 「AのB」で示される連体修飾で意味的にも「A」が「B」を修飾するもの（Bが意味主辞の場合；「太郎の論文」）
- 03 関係節で示される連体修飾（名詞が用言に係ると考える）
- 04 （普通の）連用修飾
- 05 文による連用修飾（「電車が遅れたので、会議に出席できない」のような場合で、「遅れ」が「でき」に05に係ると考える。一般に修飾側と被修飾側で主語が変わっているならば05、そうでなければ04と見なす。迷うようなときは04とする。）
- 06 「AのB」で示される連体修飾で意味的には「B」が「A」を修飾するもの（Aが意味主辞の場合；例「催促の電話」 → 「電話」で「催促」する）

なお、文献6では格・係り受けコードを63種設定しているが、ここでは作業の結果を反映してA D P（副助）を削除してある。

3. 格・係り受け関係詳細

以下に、格・係り受けコード別にその付与基準を例文を添えて示す。例文では、

01 彼が【発表】を{引き受け}た

のように構文コード(01)に続いて【 】の語が{ }の語に当該関係(この例の時はOBJ[対象]格)で係ることを示す。さらに、表層の格助詞等で判断の補助になるようなものがあれば、それを前に付加してある。これが無格助詞(表層では表れない格助詞)なら「ゼロ」と表記する。例文はコードの定義を補完する目的で挙げてあるが、文脈など他の条件によっては不適當となることがありうる。コード付与作業の原則は、あくまで「文脈依存」である。係助詞「は」にかかわる例文については、意味コードTOPのところで一括して扱うことにする。

「注:」には作業中に問題となった点や他の対立するコードとの相違を述べる。

[1] AGT (AGENT) (動作主)

定義:意志動詞などにたつ有意志主体。

主な表層格:が、の、で、に、から、より

- | | | |
|----|----|------------------------------|
| が | 01 | 【助手】が{参加}する |
| | 01 | 【聴衆】が{拍手}する |
| | 02 | 【大学】が{休み}のとき |
| | 02 | 【私】が{不在}の場合 |
| の | 01 | 【講師】の{待機}する部屋 |
| | 01 | 【記者】の{宿泊}するホテル |
| | 02 | 【演者】の{欠席} |
| | 02 | 【私】の{質問} |
| で | 01 | 書類は事務【局】で{用意}する |
| | 01 | 専門用語のスペリングは【こちら】で{調べ}ます |
| | 01 | スライドは【スタッフ】で{管理}する |
| | 01 | 会場の決定は私【ども】で{行ない}ます |
| から | 01 | 【こちら】からあらかじめ席をお{とり}することもできます |
| より | 01 | 【教授】より問題点を{指摘}された |

- 03 {欠席} した【教授】
 03 議事録を {担当} した【職員】
- 06 {担当} の【山田】
 06 セッションに {参加} の【学生】
 06 今回の会議に {協賛} の【企業】

注:「で」格は通常AGTにはなりにくい、直前につく名詞に場所性(人の集団を「場所」で示すもの)、または複数性がある場合、AGTになることがある。

注:変形を受けている場合(受動、使役、授受など)

- 01 事務局員が会議の参加【者】に {叱ら} れた
 01 営業の【者】に 資料を {作ら} せます
 01 皆【様】に施設を {見学} していただきます

注:「に」格、「から」格、「より」格がAGTになるのは変形を受けている場合が多い。

注:AGTとORGの境界

AGTとORGのDUAL CASEは表層格を重視し、「が」格はAGT、「から」格「より」格はORGとする。

- が 01 【私】が [AGT] 手紙を {書い} ておきます
 から 01 《私》から [ORG] 手紙を {書い} ておきます
 より 01 《私》より [ORG] {電話} しておきます

[2] UVA (UNVOLITIONAL AGENT) (無意志動作主)

定義: 通常意志性を持たない語が意志動詞の主体となっている場合。

擬人化用法に近い場合もある。

主な表層格:が、の、に

- が 01 送迎【バス】が名古屋駅から{出}ます
 01 【新聞】が特集記事を{組む}
- の 02 【機械】の{翻訳}
 02 【機材】の{到着}
- 03 コンピュータのニュースを{扱う}専門【紙】
 03 最新情報を{提供}する【雑誌】

注:UVA以外に取りうる格があるときは、それを優先する。

- 01 《鍵》が[T00]ドアを{開ける}
 01 《地震》が[CAU]多数の人を{殺す}

注:変形を受けている場合(受動)

「に」格がUVAになるのは変形を受けている場合が多い。

- に 01 教授は準備のため【時間】に{追わ}れている

[3] UVS (UNVOLITIONAL SUBJECT) (無意志主体)

定義:OBJをとる無意志動詞にたつ無意志主体。

OBJの衝突をさけるために設けられた格であり、2つめのOBJともとれる。

主な表層格:が、の、に

- が 01 この【費用】が送料を{含む}
 01 【挙手】が賛成を{意味}する
 01 山田教授の【研究】が産業界に影響を{及ぼす}
- の 01 この【会議】の{意味}する新時代の夜明け
- 03 150人を{収容}できる会議【室】
 03 海岸を{浸食}する【波】
- 06 300名を{収容}の【松の間】

注:変形を受けている場合(受動)

能動形よりも受動変形でいう方が自然な場合がある。

「に」格がUVSになるのは変形を受けている場合が多い。

- に 01 登録【料】にパーティ代が{含ま}れている
- 01 プログラムが【ウイルス】に{侵さ}れた
- 01 各【企業】は新製品の開発熱に{侵さ}れている
- 01 技術者の引き抜き【合戦】に{象徴}されるコンピュータの開発競争

注:UVSは「ガ・ヲ」型とその受動が多い。

[4] OBJ (OBJECT) (対象)

定義:動作、作用、創造、授与、精神活動、経験、性状描写、存在、所有などの対象。

以下2つのカテゴリーに分けて説明する。

- 1) 「他動詞の目的語」:動作、作用、創造、授与、精神活動、経験などの対象

主な表層格:を、に

- を 01 彼が【発表】を{引き受け}た
- 01 事務局が【計画】を{変更}する
- 01 NECは【コンピュータ】を{製造}しています
- 01 先生から【資料】を{もらう}
- 01 発表の【内容】を{考える}
- 01 【データ】を詳しく{調べる}
- 01 大会議【室】を{使う}
- 01 ダイアン教授の【話】を{聞く}
- 01 私の【予定】をそちらにお{伝え}しておきます
- 01 【ビザ】を外務省に{申請}しなければなりません

- に 01 事務局の日程【案】に{賛成}する
- 01 私の【相談】に{のっ}てください
- 01 【タクシー】に{乗る}
- 01 プログラムの【内容】にはご{満足}いただけましたか
- 01 早めに問題の【解決】に{着手}してください

- 01 【会議】に参加する
 01 コンピュータの【扱い】に{習熟}する
 01 事務局の【期待】に{応え}ていただけますか
 01 精密機械は激しい【震動】に{耐える}ことができない
- の
- 02 【データ】の{検討}
 02 【モデム】の{利用}
 02 【サブセッション】の{聴講}
 02 議事【録】の{発行}
 02 展示【コーナー】の{設置}
 02 【サイトシーイングツアー】の{アレンジ}
 02 【プログラム】の{決定}
 02 参加申込【書】の{同封}
- 03 菊田教授が論文に{つけ}た【タイトル】
 03 私が{郵送}した【原稿】
 03 当社が{開発}した新【製品】
 03 事務局が{指定}した【ホテル】
 03 私が{乗っ}た飛行【機】
 03 私どもの会社が{発行}している【雑誌】
- 06 機械翻訳{関連}の【トピック】
 06 語学に{関係}のお【仕事】
 06 ご{希望}のお【部屋】
 06 こちらの{指定}の【口座】
 06 {追加}の【資料】

注：OBJの「に格」は必須格のみに限る。

- 2) 無意志動詞の主体：性状描写、存在、所有などの対象
 意志性のない自動詞の「主語」、形容詞、形容名詞の
 「主語」

主な表層格：が

- が
- 01 明日の【予定】が{流れ}てしまった
 01 処理【速度】が大幅に{上がっ}た
 01 【田嶋先生】が病気に{なる}
 01 我々の講演には【OHP】が{いり}ます

- 01 最終的な【日程】が { 決り } ました
- 01 口座【番号】が { 違っ } ていました
- 01 もう【準備】が { 済み } ました
- 01 登録【手続き】が締切までに { 間に合い } ませんでした
- 01 【ドア】が { 開く }
- 01 機械翻訳に【興味】が { あり } ます
- 01 どの【ホテル】が { よい } ですか
- 01 国内の企業からの参加【者】が { 多い }
- 01 【操作】がかなり { 難しい }
- 01 交通機関の【説明】が { 詳しい }
- 01 どちらの機械も使い【勝手】が { 同じ } だった
- 01 こちらの【方】が { 便利 } です
- 01 参加【者】が予想より大勢 { だっ } た

の 02 【時間】の { 経過 }

- 03 このプロジェクトに { かかっ } たお【金】
- 03 二つに { 分かれ } た【意見】がまとまらない
- 03 大変 { 正確 } な【内容】でした
- 03 かなり { 長い } 雑誌【記事】
- 03 { 最終的 } なスケジュール【確認】
- 03 { 自由 } な【雰囲気】
- 03 アメリカで { 高い } 【評価】を受ける

3) 可能動詞の「が(に) [EXP]...が [OBJ]...」形

- が 01 私には【内容】が { わかり } ません
- 01 妻は日本【語】が { 話せ } ません
- 01 あなたは【漢字】が { 書け } ますか
- 01 参加者ならば誰でも電子【メール】が { 使え } ます
- 01 どういった【パンフレット】が { もらえる } んですか
- 01 駅の正面に大きな【ビル】が { 見え } ます
- 01 今すぐはお【金】が { 払え } ません
- 01 前田さんに今【コンタクト】が { 取れ } ますか

- 03 ファックスだと { 読め } ない【字】がありそうです

4) 数量表現

数量表現が「を」格を取る場合、DGRではなくOBJとみなす。

を 01 謝礼の3万【円】を{もらう}

注:040BJ

深層作業では040BJ、050BJは認めていなかったの以下のような例(副詞+本動詞)でも格情報を優先し、文型番号は01になった。しかし表層作業においては文型番号を決める際品詞情報を優先したため、以下のような例は04で扱うことになった。

どうするのですか

深層作業 010BJ(どう)(する)

表層作業 04(どう)(する)

そうしましょう

深層作業 010BJ(そう)(し)

表層作業 04(そう)(し)

注:補文標識「の」「こと」のあるときの埋め込み文は、名詞性があると考え、010BJとする。

01 まず内容を理解する【の】が{大切}です

01 会議の参加者である【こと】を{証明}する

[5] EXP (EXPERIENCER) (経験者)

定義: 意志性のない用言にたつ有意志主体。

以下のような3種類に分かれる。

主な表層格:が、に、を

1) 感覚、心理経験を表わす用言の主体、および受益者格

が 01 たくさんの【人】が{喜ぶ} / {怒る} / {悲しむ} /
{楽しむ}

01 担当【者】が開始時間の遅れを{心配}している

01 【全員】がそのニュースに{驚い}た

01 学生【たち】が言語処理に関心が {あり} ます
01 その方が【演者】が {助かる}

に
01 【教授】にビデオを使う気が {ない}
01 【オペレーター】には同時進行が {難しい}
01 外国からの参加【者】に登録料の割引が {ある}

の
02 主催者【側】の {不安}
02 【会社】の {利益}

2) 助動詞および補助動詞と関係し、間接受動文、使役文、願望文などに表わ
れる場合

が
01 【講師】が、来る途中雨に降ら {れ} た
01 希望者【全員】が記念写真を撮って {もらっ} た

に
01 このコースはみな【さん】にご {満足} いただいております

3) 能力の所有者

が
01 会場の正確な場所は【駅員】が {知っ} ている
01 報道関係【者】だけがフラッシュを {使える}

に
01 そのスライドなら【私】にも {映せ} ます

03 コンピュータについて {分かる} 研究【者】

注:EXPはCAUと共起することが多い。

01 【聴衆】が山田教授の《発表》に [CAU] {感銘} した
01 【学生】が投稿論文の《入選》に [CAU] {喜ぶ}

注:用言によっては意志性を持つ場合と持たない場合の両方の使い方がある。

01 相手の同情をひくために《花子》は [AGT] わざと {泣い} た
01 あまりに悲しい話【花子】は [EXP] 思わず {泣い} た

[6] REC (RECIPIENT) (受け手)

定義: 授与動詞、発言動詞、要求動詞などで表わされる物、情報、権利の移動における受け手。

RECになり得るのは原則として意志性をもつ有生名詞(+animate)である。

RECは授与、奪取、発言、要求行為に対して許諾、拒絶などができる場合が多い。

ORG(送り手)と対をなす。通常RECがあれば陽または陰にORGが存在する。

主な表層格:に、へ

- に
- 01 希望【者】に発表の機会を{与える}
- 01 【学生】に技術を{教える}
- 01 担当【者】に予定を{伝える} / {言う}
- 01 【相手】に手続きを{まかせる}
- 01 【部下】に最寄り駅までの送迎を{頼む}

- へ(の)
- 01 【通訳】へ必要書類を{送る}
- 01 【係】へ荷物を{預ける}
- 01 泊まる日を【先方】へ{知ら}せる
- 02 招待【客】への{手紙}
- 02 【上司】への御{中元}
- 02 発表【者】への{謝意}
- 02 【相手】への{クレーム}
- 02 【秘書】への{F A X}

- 03 事務局が講演を{依頼}した【先生】
- 03 私がその本を{貸し}た【生徒】

注:「主語」になるRECはAGTとのdual caseになるが、表層格を重視しAGTととらえる。

- 01 《座長》が[AGT]担当者から説明を{受け}た
- 01 旅行代理店の《社員》が[AGT]客の話を{聞く}

注:無生名詞(-animate)がRECとなる例

有生名詞でなくても、授受、発言、要求の表現における受け手と考えられればRECにする。

- 01 指定の【口座】に登録料を{振込む}
- 01 【雑誌】に{投稿}する

注:単なる移動動詞における終点はSPTとする。

- 01 《会場》に [SPT] 機材を {運ぶ}
- 01 《名古屋》に [SPT] 代表団を {派遣} する

注:RECとSPTの境界

一般には場所を示す語でも、授受、発言、要求の表現における受け手と考えられる場合はSPTではなくRECとする。(その語の背後に人を連想させるような場合に多い。)

- 01 【外務省】にVISAの発券について {問い合わせる}
- 01 【海外】に {送金} する
- 01 事務【局】に予定を {伝える} / {言う}
- 01 【宿】に最寄り駅までの送迎を {頼む}
- 01 【会社】へ必要書類を {送る}
- 01 【空港】へ荷物を {預ける}

- 02 【JTB】への {FAX}

- 03 研究所が融資を {依頼} した【銀行】

地名は人として用いられる(人を連想させる)ことがあるのでRECになる可能性がある。

- 01 【台湾】に技術を {教える}
- 01 ソフトウェアを【アメリカ】に {発注} する
- 02 【アメリカ】への {手紙}

[7] ORG (ORIGINATOR) (与え手)

定義: 授与動詞、発言動詞、要求動詞などに表われる物、情報、権利の移動における与え手。ORGになり得るのは原則として意志性をもつ有生名詞である。

ORGは授与、奪取、発言、要求行為に対して許諾、拒絶などができる場合が多い。

REC(受け手)と対をなす。通常ORGがあれば陽または陰にRECが存在する。

主な表層格:から、に

- から
- 01 前任【者】から 司会の役割を {受け継ぐ}
 - 01 主催【者】から発表の機会を {貰う}
 - 01 【私】から必要書類を {送る}
 - 01 【先生】から 技術を {習う} / {教わる}
 - 01 【部長】から直接、最寄り駅までの送迎を {頼む} / {依頼} する
- から(の)
- 02 責任【者】からの {郵便} / {手紙} / {FAX}
 - 02 発表【者】からの {送り状}
 - 02 【客】からの {苦情} / {クレーム}
 - 02 聴講【者】からの {質問}
 - 02 【委員】からの {申し入れ}
- に
- 01 主催【者】に発表の機会を {貰う}
 - 01 【先生】に 技術を {習う} / {教わる}
 - 01 受講者【全員】に料金を {いただく}
- より
- 01 【会長】よりご {招待} いただく
 - 01 来年度の研究計画を【主任】より {発表} する
 - 01 責任【者】より返事の手紙が {来る}
- 03 私がこの本を {借り} た【相手】
- 03 宿泊客が特典を {受け} られる【ホテル】

注:AGTとORGの境界
AGTの注を参照。

注:無生名詞がORGとなる例
有生名詞でなくても、授受、発言、要求の表現における与え手と考えられれば
ORGにする。

- 02 コンピュータ【事業】からの {収益}

注:単なる移動動詞の起点はSPFとする。

- 01 研究《所》から [SPF] ディスプレイ装置を {持込む}
- 01 《駅》から [SPF] 送迎バスを {出す}

注:ORGとSPFの境界

一般には場所を示す語でも、授受、発言、要求の表現における与え手と考えられる場合はSPFではなくORGとする。(その語の背後に人を連想させるような場合に多い。)

- 01 【図書館】から本を {借りる}
- 01 【外務省】からV I S Aの発券について {問い合わせる}
- 01 【通産省】から後援を {受ける}
- 01 【I E E E】より返事の手紙が {来る}
- 01 主催【団体】よりご {招待} いただく

- 02 【外国】からの {郵便} / {手紙} / {F A X}
- 02 【海外】からの {入金}
- 02 雑誌【社】からの {申し入れ}

地名は人として用いられる(人を連想させる)ことがあるのでORGになる可能性がある。

- 01 【アメリカ】から技術を {教わる}
- 01 【日本】より記念品を {贈る}

- 02 【アメリカ】からの情報 {公開}

注:RECとORGが対になって表われている例

- 01 【会長】から [ORG] 《山田教授》に [REC] 感謝状を {授与} する

- 02 【会長】から [ORG] 《山田教授》への [REC] 感謝 {状}

[8] PRT (PARTNER) (相手1)

定義:対称用言において、AGTまたはOBJと対になって表われる格。

原則として対称用言は相手を必要とする状態または動作などを表わすため、PRTは通常必須格である。

また典型的な対称用言の場合、対になっているAGTとPRT(OBJとPRT)は互いに同じ、または等価の意味素性をもっている。

対称用言の例:「会う」「結婚する」「離婚する」「別れる」「戦う」
「似ている」「....し合う」「合わせる」「釣り合う」
「衝突する」「ぶつかる」「打ち合わせる」「提携する」
「合併する」「相談する」など。

主な表層格:と、に、から

AGTとPRTが対になっているタイプ

- と/に 01 国際会議は、《社員》が [AGT] 世界の技術【者】と/に
{出会う} よい機会だ。
01 《スピーカー》が [AGT] 次の【スピーカー】と/に
{交代} する
01 《助手》が [AGT] 【教授】と/に {相談} する
- と 01 A《社》が [AGT] B【社】と {提携} して新製品を開発する
- 03 当事務局が密接に {係わっ} ている【ATR】
03 私が電子交換会議の会場で {交流} した【人々】

OBJとPRTが対になっているタイプ

- と/に 01 古い《システム》が [OBJ] 新しい【の】と/に {換わる}
01 古い《システム》を [OBJ] 新しい【の】と/に {換える}
- に 01 たてた《プラン》が [OBJ] 相手の【希望】に {沿う}
- と 01 A《案》を [OBJ] B【案】と {比べる}
- 06 そのテーマの {関連} の【研究】

注:下記の例は対称用言ではないがPRTを連想させるので02PRTにする。

- と(の) 02 【サマリー】と {一緒} に送る
02 彼は【教授】と古くからの {友人} だった
02 発表の【内容】と深い {関係} がある
02 主催者【側】との {打ち合せ}

注:PRTテスト

対称用言とは、その対をなす項を互いに交換してもほぼ同じ意味を持つ用言をいう。

次の2つのテストのうちどちらか1つにでも通れば、PRTの可能性が高い。

1) 交換可能

日本語を英語と比較する ←→ 英語を日本語と比較する

compare Japanese with English ←→ compare English with Japanese

油は水と混ざらない ←→ 水は油と混ざらない

Oil doesn't mix with water. ←→ Water doesn't mix with oil.

2) 並列助詞の「と」でつなぐことができる

[日本語と英語] を比較する

compare Japanese and English

[油と水] は混ざらない

Oil and water don't mix.

[9] ACC (ACCOMPANY) (随伴)

定義: 「と共に、と一緒に」という意味を表わす任意格。

主な表層格: と

- と 01 同じ研究室の【助教授】と会議に {参加} する
- 01 主催者【側】と内容を {検討} する
- 01 事務局の【人】と用件を {詰める}

- と(の) 02 同業【者】との会場の {視察}
- 02 【友人】との {旅行}

注: 表層格を同じくするPRTとの機能面での差は、その任意性にある。

- 01 理事【たち】と [ACC] 食事を {する}
- 食事は一人でもできる

- 01 理事《たち》と [PRT] {会食} する
- 会食は一人ではできない

[10] OPP (OPPONENT) (相手2)

定義:そこから遠ざかりたい相手(OPP)を表示する。

主な表層格:から

- から 01 登録【料】から返却分を{差し引く}
- 01 【現実】から{遊離}した議論
- 01 【本筋】から{逸脱}する
- 01 保険をかけて、精密機械を破損【事故】から{守る}
- 01 目の前の【事実】から{逃避}する

- を 01 【責任】を{逃れる}

- 03 どうしても{抜け}られない【用事】

注:「から」格について

「から」格には、授与動詞、発言動詞のORG、場所移動動詞のSPF、変化動詞のSRC等があるが、それらに対しそこから逃げたり遠ざかったり、避けたりしたい相手を「から」格で示すことがある。

そういった用法の場合「遠ざかる」という意味では移動動詞的な要素もあるが、問題になっているのが抽象的な場所であり、また動詞の意味も抽象的ではっきりした移動動詞の使い方とはいえ、SPFがつけにくいことが多い(上の例文参照)。このためOPPを使う。

[11] TMA (TIME-AT) (時点、時)

定義:ある動作、事象の生起する時点を示す格で「いつ...?」「いつまでに...?」

といった問いに対する回答となりうる。

瞬間相の用言と共起することができる。

通常必須格にならない。

主な表層格:に、ゼロ、で、までに、から

特に表層に表れ易いのは「に」「で」「までに」である。

- に 01 会議が10【時】に{始まる}
- 01 【9月】にアメリカを{訪問}する
- 01 今月【中】に参加申込みの手続きを{とる}
- 01 コーヒーブレークの【間】に打ち合わせを{済ます}

- 01 会議が始まる【前】に座長と {話し} ておく
 01 【初日】にウェルカムパーティーが {予定} されています
 01 3日【以内】に {仕上げ} ます
- で 01 会長の挨拶の【後】で基調講演が {行なわ} れた
 01 夕方の6【時】で会議が {終る}
 01 講演の【途中】で席を {たつ}
- までに 01 9【時】までにホテルに {到着} しなければならない
 01 8月【末】までに {申し込み} ば参加料が割引に
 なります
 01 講演が【始まる】までにスライドを {セット} する
- から 01 詳細は【後】から {連絡} します
 01 内容を【調べ】てから {申し込み} ます
 01 実質的には2日【目】から日程が {始まっ} た
 01 【今】から飛行機の便と時間を {申し上げ} ます
- ゼロ 01 打ち合せ終了【後】食事に {行く}
 01 【明日】議事録を {郵送} します
 01 会場に着いた【とき】すでに分科会が {始まっ}
 ていた
 01 スミス教授来日の【際】、私が通訳を {務め} ました
- の 02 【来年】の {会議}
 02 【今日】の {スケジュール}
 02 3日【目】の {サブセッション}
 02 【現在】の為替 {レート}
- 03 晩餐会の {行なわ} れるこの日曜【日】
 03 申込みが {締め切ら} れる8月【31日】
- 04 【前もって】書面で {答え} します
 04 【先程】 {申し上げ} ましたが...

注:TMAは一文に二度表われることもある。

- 01 【今日】 [TMA1] も 9【時】に [TMA2] 会議が {始まる}

注:TMAはTMF、TMT、TMDと共起することもある。

- 01 【9月】に [TMA] 10日《頃》から [TMF] 15日《頃》
まで [TMT] 5日《間》 [TMD] 香港に {出張} する

[12] TMF (TIME-FROM) (時、起点)

定義:時間の起点。ある動作、事象の開始する時間を示す格で、「いつから...?」
という問いに対する回答となりうる。

継続相の用言と共起し易い。

主な表層格:から、より

- から
- | | | | |
|----|---|------------|-------------------|
| 01 | 3 | 【時】 | から休憩に {入る} |
| 01 | | 【朝】 | から翌日の準備を {する} |
| 01 | | 【先週】 | から日本に {滞在} しています |
| 01 | 6 | 【時】 | からレセプションが {ある} |
| 01 | | セッションに【最初】 | から最後まで {出席} しています |
- から(の)
- | | | | |
|----|--|------|----------|
| 02 | | 【来週】 | からの {休暇} |
| 02 | | 【これ】 | からの {予定} |
- より
- | | | | |
|----|--|------|-------------------|
| 01 | | 【9月】 | より開始時間を {変更} する |
| 01 | | 【次回】 | より場内での喫煙を {禁止} する |
- より(の)
- | | | | |
|----|--|-------|-------------------|
| 02 | | 【かねて】 | よりご {承知} のことと存じます |
| 02 | | 【従来】 | よりの問題 {点} |

注:「始まる(begin)」は本来瞬間相を示すので、英語では "begin from
7 o'clock" とは言わず、"begin at 7 o'clock" と言う。

しかし日本語では「7時から始まる」と言い得る。その場合表層格「から」
を重視し、TMFとする。

- 01 7【時】から [TMF] {始まる}

[13] TMT (TIME-TO) (時、終点)

定義:時間の終点。ある動作、事象の終了する時間を示す格で、「いつまで...?」
という問いに対する回答となりうる。

継続相の用言と共起し易い。

通常必須格にならない。

主な表層格:まで

- まで
- 01 5【時】まで打ち合せを{続ける}
 - 01 松下電器が【今】までどのような製品を{作っ}てきたかを調べる
 - 01 申込みは何時【頃】まで{大丈夫}ですか
 - 01 原稿は明日の【夜】まで{送れ}ません
 - 01 参加取り消し料は9月【末】まで{かかり}ません
- までの(の)
- 02 【昨年】までの{肩書}
 - 02 10月27日から【30日】までの{国際コンピュータ会議}/3日{間}
- 04 27日から30日に【かけ】て会議が{行なわ}れる

[14] TMD (TIME-DURATION) (時、継続)

定義:幅を持っている時間に関する量の規定をいう格で、「どのくらい(の期間) ...?」(how long?)という問いに対する回答となりうる。

時間の幅を示すために、「間」「中」などがつくことが多い。

継続相の用言と共起し、瞬間相の動詞とは共起できない。

通常必須格にならない。

主な表層格:表われないことが多い

- ゼロ
- 01 3日【間】小さなセッションが{続く}
 - 01 見本市の間【中】ガイドが{つい}ている
 - 01 東京に5【日】ほど{滞在}する
 - 01 会議はどれくらいの【期間】{開か}れるんですか
 - 01 24【時間】端末を{つない}でいる
 - 01 【終日】出入口を{警備}する

- の 02 10日【間】の{日程}
- 02 会議開催【中】の滞在{費}
- 02 1【時間】の{休憩}
- 02 3【分】ほどの{スピーチ}

- 04 ここのところ【ずっと】試験で{忙しい}
- 04 【しばらく】資料を{預から}せてください
- 04 何年にも【わたり】スーパーコンピュータの開発を
{行なっ}てきた

注:TMAとTMDの境界

格助詞「に」があると時間の幅の感覚が弱くなり、TMDではなくTMAになり易い。

- 01 休憩時間の【間】 [TMD] 次の講演の資料を{読ん}でいた
- 01 休憩時間の《間》に [TMA] 次の講演の資料を{読ん}でおいた

注:DGRとTMDの境界

時の意味特徴を含む語を必須格、準必須格として要求する動詞(かかる、経過する、過ぎる、経る、たつ)の場合には、その語に対する数量規定(属性値)はDGRであり、TMDではないものとする。

DGRの注を参照。

- 01 《月日》が [OBJ] 三【年】 [DGR] {過ぎ去っ}た
- 01 《時間》が [OBJ] 三【時間】 [DGR] {かかる}

[15] SPA (SPACE-AT) (場所)

定義:場所の一地点。存在、状態、動作の行なわれる場所を示す格で、「どこで(に)...?」という問いに対する答となりうる。

方向性が問題にならない用言と結び付く。

必須格になることは少ない。

主な表層格:に、で

- に 01 松の【間】でレセプションを{開く}
- 01 【手元】に資料が{ない}

- 01 通訳は 控【室】に {いる}
 - 01 パネルの【前】にコンピューターを {設置} する
 - 01 この【機械】にはハードディスクが {組み込ま} れている
 - 01 【コンGRESキット】には必要な書類が全て {入っ} ている
 - 01 【コールフォーペーパー】に {あげ} である項目
- で
- 01 国際会議場【前】でバスを {降りる}
 - 01 会議【場】でOHPを {使い} たい
 - 01 大阪【駅】で環状線に {乗り換える}
 - 01 【銀行】で参加費を {支払う}
 - 01 【大学】で情報工学を {教え} ている
 - 01 【名古屋】で国際会議が {行なわ} れる
 - 01 会議場内の【食堂】で {食事} する
- で(の)
- 02 【東京】での {宿泊}
 - 02 【現地】での {視察}
- の
- 02 この【近く】の駐車 {場}
- 03 私が {泊まっ} た【ホテル】
 - 03 会議が {開か} れる【ニューオータニ】
 - 03 詳しい内容を {書い} た【書類】
 - 03 座談会を {開く} 【ミーティングルーム】
 - 03 スライドを {映写} する【スクリーン】
 - 03 パンフレットを {置く} 【コーナー】
- 04 バス降り場から当社のビルが【すぐ】 {見え} ます
 - 04 海を【越え】て先生のご回復を事務局一同お {祈り} いたします

注:所属先もSPAとする。

- 01 【情報処理学会】に {属し} ています
- 01 私は雑誌【社】に {勤め} ています
- 02 【IEEE】の {会員}

注:やや抽象的な意味合いの語であっても、場所を想起させる用言と結び付く場合はSPAとする。

- 01 第3【章】に詳しいことが {載っ} ている

- 01 学生割引について登録【表】に記載が{ある}か
- 01 【午前】に1回、【午後】に1回休憩を{挟む}
cf. 【プログラム】に広告を{挟む}
- 01 従来からの【問題】に手を{付ける}
cf. 【上着】に登録のバッジを{付ける}
- 03 ブースの位置が{書い}てある見取【図】

注: AGTとSPAの境界

文脈によりAGTかSPAかの判断が必要な例がある。

- 01 私どもは全ての準備を【現地】で [SPA] ではなく【こちら】
で [SPA] {行ない}ます
- 01 全ての準備を《こちら》で [AGT] {行ない}ますので、
先生はご心配には及びません。

[16] SPF (SPACE-FROM) (場所、起点)

定義: 移動、運動の方向の起点。方向性を持った動きの出発点を示す格で、
主として「どこから(を)...?」という問いに対する答となりうる。
何らかの形でベクトルを示す用言と共起し易い。
移動動詞の必須格となる。

注: 【 】の語が { }の語にSPF格でかかるものとする。

主な表層格: を、から

- を
- 01 3時に【現地】を{出発}する
 - 01 10日に【ニューヨーク】を{発つ}
 - 01 【部屋】を{出る}
 - 01 【会場】を{離れる}
- から
- 01 世界各【国】から研究者が{集まる}
 - 01 【羽田】から大阪に{飛ぶ}
 - 01 【ここ】から施設の建物が{見え}ます
 - 01 【大阪空港】からバスに{のる}
 - 01 添乗員が【日本】から{同行}する

- より 01 【北海道】より {まいり} ました山田と申します。
- からの(の) 02 【サンフランシスコ】からの直行 {便}
- 02 【名古屋駅】からの {アクセス}
- よりの(の) 02 【国外】よりの機材の {持ち込み}
- 03 市内が {一望} できる【丘】
- 03 海の {見える} 【場所】

注:SPFとSPAの境界

同様の使い方の場合、SPAかSPFかは表層格を重視して決定する。

- 01 【新大阪駅】から [SPF] 在来線に {乗り継ぐ}
- 01 《新大阪駅》で [SPA] 在来線に {乗り継ぐ}

注:SPFとOPPの境界

その用言のもつ移動性が弱く、また用言も用言にかかる語も抽象性が高い場合にはSPFではなくOPPにする。

- 01 見本市の【人混み】から [SPF] {脱する}
- 01 話の内容が《本筋》から [OPP] {逸脱} する

注:SPFとORGの境界

ORGの注も参照。

移動性が問題となる場合はSPF、授受性が問題となる場合はORGにするのが原則である。従って、移動性と授受性を比べることによってSPFかORGかを決定する。

移動性

- 01 私は【会社】から [SPF] 10時に {出} た

授受性

- 01 私は《会社》から [ORG] 出張費を {もらっ} た
cf. 私に《会社》から [ORG] 出張費が {出} た

同じ用言であっても場所を示す語と結び付くときは移動性が生じてSPFを

とり、人を示す語と結び付くときは授受性が生じORGをとることがある。

- 01 【アメリカ】から [SPF] 資料が {届く}
01 《先生》 から [ORG] 資料が {届く}
- 02 【北京】からの [SPF] {電話}
02 担当 《者》 からの [ORG] {電話}

なお、判断が難しい場合のdefaultはSPFである。

注:出身はある種の方向性を感じるのでSPFとする。

- 01 【M I T】からホワイト教授が {参加} した
- cf. SPAの注を参照。(所属先のSPA)
- 02 《M I T》の [SPA] {ホワイト教授}

注:移動性があまりなくても、ある場所からの移動を想起させ心理的にベクトルの起点が感じられる場合はSPFにする。

- 01 会議場が【ホテル】から {遠い}
01 私の研究所は【駅】から {離れ} ています
- 02 【東京】からの {運賃}

[17] SPT (SPACE-T0) (場所、終点)

定義:移動、運動の方向の終点。方向性を持った動きの目標点、到達点を示す格で、主として「どこへ(まで、に)...?」という問いに対する答となりうる。何らかの形でベクトルを示す用言と共起し易い。移動動詞の必須格となる。

主な表層格:に、へ、まで

- に 01 帰りに【香港】に {寄り} たい
 01 午後9時まで【自宅】に {到着} できる
 01 会議【室】に {入る}

- 01 【原点】に {戻る}
- 01 本を【手】に {取る}
- へ
- 01 【大阪】へ飛行機で {行く}
- 01 よく見える【場所】へ {案内} する
- まで
- 01 会議【場】までタクシーで {乗りつける}
- 01 詰めの【段階】まで話を {進める}
- 01 そのフロッピーディスクを事務【局】までお {持ち} ください
- 01 【そこ】まで手が {回ら} ない
- を
- 01 【都心】を {目指す}
- へ(の)
- 02 集合【場所】への行き {方}
- まで(の)
- 02 開催【地】までの {シャトルバス}
- 03 昨年見学に {行っ} た【工場】
- 04 今後どういう方向に【向け】て研究を {進める} べきなのか
- 04 日本に【向け】て現地を10日に {出発} する

注:SPTとSPAの境界

同じ用言であっても、「方向性、ベクトル」が問題となっていればSPT、動きのない状態表現であればSPAとする。この違いはアスペクトや文脈によって生じることが多い。

- 01 講演者の方は控【室】に [SPT] お {集まり} ください
- 01 講演者は全員控《室》に [SPA] {集まっ} ている

注:同様の使い方がされている場合、SPAかSPFかSPTかは表層格を重視して決定する。

- 01 ホテルは【会場】まで [SPT] {近い}
- 01 ホテルは《会場》に [SPA] {近い}
- 01 ホテルは《会場》から [SPF] {近い}

注：SPTとRECの境界

RECの注も参照。

移動性が問題となる場合はSPT、授受性が問題となる場合はRECにするのが原則である。従って、移動性と授受性を比べることによってSPTかRECかを決定する。

移動性

01 私は 10時に【銀行】に [SPT] {行っ}た

授受性

01 私は 《銀行》 に [REC] 登録料を {支払っ}た

同じ用言であっても場所を示す語と結び付くときは移動性が生じてSPTをとり、人を示す語と結び付くときは授受性が生じRECをとることがある。

01 【アメリカ】に [SPT] 資料を {届ける}

01 《先生》に [REC] 資料を {届ける}

02 【北京】への [SPT] {電話}

02 担当 《者》 への [REC] {電話}

なお、判断が難しい場合のdefaultはSPTである。

注：移動性があまりなくても、ある場所への移動を想起させ、心理的にベクトルの終点を感じられる場合はSPTにする。02の場合に多い。

02 【東京】への {運賃}

02 【大阪】への {切符}

02 【大学】への {道順}

[18] SPR (SPACE-THROUGH) (場所、通過)

定義：移動、運動における通過場所。移動が行なわれる面、空間、通過地点、通過経路などを示す格。線の通過や面の横断もこの格の対象となる。移動動詞と共起し易い。

主な表層格:を

- を
- 01 【アンカレッジ】を {経由} する
 - 01 【ヨーロッパ】を {周遊} する
 - 01 一つ目の【信号】を左に {折れる}
 - 01 【橋】を {渡る}
 - 01 【信号】を {渡る}
 - 01 特急【列車】が駅を {通過} する
 - 01 【国境】を {越える}
 - 01 【ロビー】を {横切る}
- の
- 02 奈良【市内】の {観光}
 - 02 会場【間】の行き {来}
- 03 見学者が自由に {回れる} 【施設】

注:SPRとDGRの境界

格助詞がなく(表層格がゼロ)、数量規定であることが明らかであればDGRにする。

一方、格助詞があって、数量規定というよりもむしろ抽象的な場所(の幅)を意味していると感じられればSPRにする。

- 01 50《キロ》 [DGR] {歩く}
- 01 50【キロ】を [SPR] {歩き} ぬく
- 01 50キロの【距離】を [SPR] {歩く}

注:SPRとSPA

「グラウンドを駆ける」、「グラウンドで駆ける」の場合、前者では「駆ける」という行為が成立するために「グラウンド」が必要であるので、「グラウンド」が「駆ける」という行為の向かう直接的な対象に近いので必須格とも取れるが、それに対して、後者は行為の成立する場所といった外的背景を示しているに過ぎないので必須格ではない。

- 01 《国立競技場》で [SPA] 【トラック】を [SPR] {走る}
- 01 《ローマ》で [SPA] 【アッピア街道】を [SPR] {歩く}

注:SPAはSPF、SPT、SPRと共起することもある。

- 01 《パリ》で [SPA] 【ルーブル美術館】を [SPR] 《隅》から [SPF] 《隅》まで [SPT] {歩き} 回る

[19] SRC (SOURCE) (状態変化の始点)

定義:主として変化動詞と共に起して状態変化の始点を表わす格。

GOAと対をなす。通常SRCがあれば陽または陰にGOAが存在する。

なお変化動詞の定義は広くとってかまわないものとする。

主な表層格:から

- | | | |
|-----|----|------------------------------|
| から | 01 | 【ドイツマルク】から円に {両替} する |
| | 01 | 英【語】から日本語に {翻訳} する |
| | 01 | 【EUCコード】からシフトJISコードに {変換} する |
| | 01 | 【助手】から講師に {なる} |
| | 01 | 信号が【赤】から白に {変わる} |
| からの | 02 | 日本【語】から英語への 同時 {通訳} |
| | 02 | 参加費の一万【円】からの {値下げ} |

注:変化動詞

変化動詞は変化する対象、変化前の始状態、および変化後の終状態を陽または陰に必要とする。

始状態SRC→ 対象OBJ の 状態変化→ 終状態GOA

- | | | |
|----|------------------------------|----------------------|
| 01 | 《使用機材》を [OBJ] 【スライド】から [SRC] | 《ビデオ》に [GOA] {変更} する |
| 01 | 登録《料》が [OBJ] 5000【円】から [SRC] | 5500《円》に [GOA] {上がる} |

注:SRCとOBJの境界

SRCとOBJのDUAL CASEは表層格を重視し、「が」格や「を」格はOBJ、「から」格はSRCとする。

- | | | |
|----|----|--------------------------------------|
| を | 01 | 《英語》を [OBJ] 日本語に {翻訳} する |
| から | 01 | 文献を [OBJ] 英【語】から [SRC] 日本語に {翻訳} する |
| が | 01 | 《助教授》が [OBJ] 教授に昇進する |
| から | 01 | 山田氏が [OBJ] 【助教授】から [SRC] 教授に {昇進} する |

が 01 《雨》が [OBJ] 雪に {変わる}

から 01 【雨】から [SRC] 雪に {変わる}

[20] GOA (GOAL) (状態変化の終点)

定義:主として変化動詞と共に起して状態変化の終点を表わす格。

SRCと対をなす。通常GOAがあれば陽または陰にSRCが存在する。

なお変化動詞義は広くとってかまわないものとする。

移動表現でも授受表現でもない「に」格はGOAにすることが多い。

主な表層格:に、へ、まで

- に
- 01 参加者を小さな【グループ】に {分ける}
 - 01 セッションの参加【者】に {限り} 入場が可能です
 - 01 教授が【病気】に {なる}
 - 01 山田教授を【座長】に {選出} する
 - 01 技術者のレベルを【一定】に {保つ}
 - 01 研究テーマをひと【つ】に {絞る}
 - 01 振込先を【住友銀行】に {指定} する
- に/へ
- 01 ドイツマルクから【円】に/へ {両替} する
 - 01 英語から日本【語】に/へ {翻訳} する
 - 01 EUCコードから【シフトJISコード】に/へ {変換} する
 - 01 信号が赤から【白】に/へ {変わる}
 - 01 助手から【講師】に/へ {昇格} する
- に/と
- 01 参加費は5万【円】に/と {なっ} ています
 - 01 5日目は一日中分科【会】に/と {なり} ます
 - 01 会議は27日からという【こと】に/と {なっ} ています
- と
- 01 停電のため、会場は混乱【状態】と {化し} た
- まで
- 01 タクシー料金は1000【円】までは {行か} ない
- へ(の)
- 02 日本語から英【語】への同時 {通訳}
 - 02 小さな【部屋】への {変更}

- の 02 ホテルに A B 【 C 】 のランク {付け} がある
- 03 注意事項を {まとめ} た【パンフレット】
- 03 バックナンバーを再 {編集} した縮刷【版】
- 04 6月から参加費が【高く】 {なり} ます
- 04 機械の調整が【難しく】 {なる}
- 04 タクシーだと【割高】に {なる}
- 04 日程は【どう】 {なっ} ていますか
- 04 会議に参加【でき】なく {なる}

注:結果のGOA

作為動詞 (FACTITIVE VERB) に対して、作為の結果 (OBJに変化を与えた結果できあがったもの。英語ではS+V+O+CのCにあたる) を表わしている語はGOAとする。

- 01 講演《内容》を [OBJ] 【本】に [GOA] {刷る}
- cf. 《本》を [OBJ] {刷る}
- 01 会議を【記事】に [GOA] {取り上げる}

[21] CAU (CAUSE) (原因、理由)

定義:原因、理由、動機を示す格。

主として現象、事象を表わす名詞句、あるいは「埋め込み文+形式名詞」の形で表れることが多い。

主な表層格:で、に、から

- で 01 家庭の【事情】で会議に参加 {でき} ない
- 01 経費【不足】で中止に {なる}
- 01 会議1月前のキャンセルという【こと】でキャンセル料が高く {なる}
- 01 OHPが使えるという【こと】で大変 {うれしい}
- 01 【出張】で留守に {し} ていました
- 01 会議の【関係】で {忙しい}
- 01 【私用】で会議を {欠席} する
- 01 お【盆】で交通期間が {こみあう}

- 01 自分の【都合】で {キャンセル} する
- に 01 出張の【ため】に連絡が {遅れ} ました
 01 日本にそういうシステムがない【こと】に {驚き} ました
 01 皆さんのすばらしいご準備【振り】に {感謝} します
- から 01 係の不【注意】から事故が {起こる}
 01 参加者が共通の関心を持っている【こと】から、議題
 以外にも幅広く話合いが {行なわ} れた
- ゼロ 01 貴重なご【意見】どうも {ありがとう} ございます
 01 私は東京在住の【ため】、名古屋の地理はよく {わから} ない
- とは 01 先生のお話が【聞ける】とは、 {楽しい} ですね
- で(の) 02 情報処理学会の会員という【こと】での {割引}
- の 02 病気の【ため】の {欠席}
- 03 講演の進行が {ストップ} したスピーカーの【故障】
 03 頭が {いたい} スケジュール【調整】
- 04 【どうして】そんなに参加料が {高い} のか
 04 それを【聞い】て {うれしい}
 04 無理を【言っ】て {申し訳ない}
 04 バック旅行の方が面倒が【なく】て {よい}
 04 都合に【より】参加できなく {なっ} た
- 05 先生においで【いただい】て、本当にありがたいと {思っ} て
 います
 05 発表内容に興味【あり】ますので是非会議に参加し {たい}
 05 ニューオータニはあいにく【満室】でしたのでお部屋が
 {取れ} ませんでした
 05 どちらのコースもまだ定員に【達し】ていないので、申込みが
 {可能} です
 05 スライドが1台しか【使え】ないと言われたので発表方法を
 {変え} ました

注:CAUは主語となり得る。(UVA、T00の注参照)

が 01 地価【高騰】が [CAU] 社会資本の整備を {遅ら} せる

注:T00とCAUの境界

T00は、その文の主体が用言によって表わされる結果をもたらすために(意図して)そのT00を利用していることを背後に連想させる。

それに対してCAUにはそのような連想は生じない。

T00の注を参照のこと。

01 日本には 業務【命令】で [CAU] {来} ました

01 日本には《パッケージツアー》で [T00] {来} ました

01 予算の【都合】で [CAU] {解約} する

01 《電話》で [T00] {解約} する

01 自宅と会場の【往復】で [CAU] 一日 {つぶれ} てしまった

01 《たち読み》で [T00] 余った時間を {つぶす}

[22] T00 (TOOL) (道具)

定義:意志的な行為の際にAGT格が利用する道具、手段、方法を表わす格。

そのためAGT格に相当する「道具を利用する人」(または人に相当するもの)が陽または陰に想定されている。

原則として意志動詞と共起し、無意志動詞とは共起しない。

格助詞の部分を<を使って><によって>などで置換することができる場合が多い。

主な表層格:で

で 01 【パソコン】で {通信} する

01 【コンピュータ】で英語から日本語に {翻訳} する

01 【書面】で {提出} する

01 【電話】で事務局に {連絡} する

01 宅急【便】で本を {送る}

01 飛行【機】でアメリカに {帰る}

にて 01 【速達】にて {送る}

01 【文書】にて結論を {伝える}

- で(の) 02 【キャッシュ】での {払い戻し}
 02 【リモコン】での {操作}
 02 【バス】での {往復}
- の 02 【電話】の {会話}
- による 02 登録【料】による {運営}
 02 【カード】による {支払い}
- 03 私が抗議の意を {表明} した【手紙】
 03 支払い済みを {証明} する領収【書】
 03 演者が実験の様子を {見せる} 【ビデオ】
- 04 OHPを【使っ】て {発表} する
 04 バスに【乗っ】て会場に {向かう}
 04 上司と【相談】して {決め} ます
 04 【どう】 {やっ} て支払えば良いのですか
 04 I E E E 日本支部の山本さんを【通じ】て {打診} する
 04 モデムを【利用】して {通信} する
- 05 旅行社の方に希望を【伝え】て調整さ {せ} ます
 05 スライド機を2台使わせて【いただい】て説明を行ない {たい}
 05 有名な先生方にきて【もらい】スピーチをして {もらい} ます

注:具象的なものでなく、抽象的なものでもTOOにできる。(格助詞の部分を
 <を使って><によって>などで置換することができる場合が多い)
 そのためモード、機能、システム、やり方、手順などもTOOになり得る。

- 01 高速【モード】で {検索} する
 01 参加費は銀行【振込み】で {支払う}
 01 日本【語】で案内を {標示} する
 01 【空路】で大阪空港からお {いで} になる
 01 16【進法】で {行なう}
 01 その通訳電話は具体的にどのような【手順】で {扱う} の
 でしょうか

注:TOOは主語となり得る。(UVA、CAUの注参照)

- が 01 【爆弾】が東京を {破壊} する
 01 【鍵】がドアを {開ける}

01 【船】が砂利を {運ぶ}

注:T00とCNDとCAU

T00は原則として無意志動詞とは共起しない。同じ「で」格において次のような傾向がある。

意志動詞の場合(「埋める」は意志動詞)

01 私はその穴を【土】で [T00] {埋め} た

無意志動詞の場合(「埋まる」は無意志動詞)

01 その穴は先日の《洪水》で [CAU] {埋まっ} た
→「先日の洪水が原因で埋まった」

01 その穴は《土》で [CND] {埋まり} ます
→「その穴が埋まるには土が条件として必要だ」

[23] MAT (MATERIAL) (材料)

定義:材料、原料、構成要素を示す格。

主な表層格:で

で 01 委員会を大学の【先生】と企業の【人】で {構成} する
01 新【素材】で {つくっ} たケーブル

から 01 プラスチックは【石油】から {でき} ている

より 01 審議会は5人の【メンバー】より {なる}

の 02 【木】の {机}
02 世界中の科学者【達】の {ネットワーク}
02 【読者】の {層}
02 同級【生】の {グループ}
02 開会【宣言、パレード、挨拶】などの開会 {式}
(固め処理)
02 【9名の社員と3名の役員】の {一行}
(固め処理)

注:02におけるMATとDGRの境界

構成内容が問題になる場合はMATにする。

- 02 10【人】の{団体}
(「10人からなる団体」=a group of ten)
- 02 【学生】の{団体}
(「学生からなる団体」=a group of students)

内容ではなく数量規定が問題になる場合はDGR

- 02 3《組》の[DGR]{団体}
(=three groups)

[24] MAN (MANNER) (様態)

定義:ある動作、過程、変化、活動、状態における様態を示す格で、「どんな風に...?」といった問いに対する回答となりうる。

主な表層格:に

- に
- 01 【前向き】に{検討}する
 - 01 日本人とアメリカ人の会話を機械が【即座】に{通訳}する
 - 01 他国の研究者と【一緒】に仕事を{する}
 - 01 先生のおっしゃる【通り】に準備を{進め}ます
 - 01 どういう【風】にスライドを{使い}ますか
 - 01 【万全】に準備を{整える}
- で
- 01 厳しい【態度】で{臨む}
 - 01 写真は版下と別【添】で{提出}します
- より
- 01 先生のおいでを【心】よりお{待ち}しております
- ゼロ
- 01 【無事】予約が{とれ}ました
 - 01 車に乗った【まま】{案内}する
 - 01 順番【通り】{ならぶ}

- で(の) 02 【共同】での質疑 {応答}
 02 公式の【形】での {回答}
- の 02 非【公式】の {会合}
 02 【個別】の {インタビュー}
 02 【一律】の {支払い}
- 04 【直接】相手に {連絡} する
 04 会議内容を【ざっと】 {説明} する
 04 【あえて】議長就任の依頼を {辞退} する
 04 【詳しく】 {案内} する
 04 世界中を【あわただしく】 {飛び回る}
 04 登録料間違い【なく】 {受け取り} ました
 04 時間を【見計らっ】て終了の合図を {送る}
 04 小さなグループに【分け】てサブセッションを {行なう}
 04 問題点を全部【まとめ】て {取り扱う}

注:形容名詞による用言類の修飾は深層作業では文型が01になるが表層作業では04で扱った。

内容を【正確】に {記述} する

深層作業 01MAN(正確)(記述)

表層作業 04(正確)(記述)

機械翻訳はまだ【完全】には {普及} していない

深層作業 01MAN(完全)(普及)

表層作業 04(完全)(普及)

以下類例

【正式】に登録を {済ませる}
 スピーチ内容を【簡単】に {教え} てください
 書類は【早急】に {送ら} せていただきます
 座長に【ダイレクト】に連絡を {とる}
 【個人的】に {相談} する
 パネラーが【自由】に {討論} する

注：状態動詞との共起

通常、MANは状態動詞と共起しにくい、下記の様な例もある。

- 01 会員証は封筒の中に領収書と【共】に{入っ}ています
- 04 できるかどうか、まだ【はっきり】{解り}ません
- 04 ホテルの予約は【ちゃんと】{でき}ている

[25] CND (CONDITION) (条件)

定義：条件を表わす格。命題がなりたつための制限条件を表出する。

通常自由格である。

置き換え可能な形式 <...という条件で>、<...なら...>、
<...が与えられれば>、<...でもって>

主な表層格：で

- 1) 条件 (...なら、...が与えられれば、if...、 given...)

- で
- 01 【これ】で{結構}です
- 01 会議場まで20【分】ぐらいで{つき}ます
- 01 あと一週【間】で{書き}上げます
- 01 議事録は1万【円】で{販売}致します
- 01 小切手は事務局【あて】で{よろしい}んでしょうか
- 01 20【人】で会議に{出席}します
- 01 支払は会議の【あと】で{大丈夫}ですか
- 01 27日に支払い到着という【こと】でお{願い}します
- 01 午前中のセッションはあとどれ【くらい】で{終り}ますか
- 01 【無料】でパンフレットを{差し上げ}ます
- で(の)
- 02 3【日】での{仕上げ}
- の
- 02 特殊条件【下】の{分析}
- 04 料金は学生、一般【共に】2万円{です}
- 04 【とりあえず】3部だけ{予約}しておきます
- 04 【一応】{参加}する予定です

04 彼の学会に【比べる】と少し{高い} ようですね
 04 後程お【電話】すれば{よろしい} のですね
 04 【何とか}{間に合う} でしょう
 04 どう【し】たら{良い} のでしょうか
 04 11月【です】と丁度こみあうシーズン{です} ね
 04 日数の面から【いっ】て今回は{無理} なようです

05 もし早めの方が【よろしけれ】ばファックスで流させて
 {いただき} ます
 05 早めにおっしゃって【いただけれ】ば、キャンセル料も安く
 {済み} ます
 05 仕事が25日までに【片付け】ば、私も参加{でき} ます
 05 こちらの手続きが【終り】ましたら、早速登録票を送らせて
 {いただき} ます

2) 最上級相当構文における範囲、場(..のなかで、of..., in...)

で 01 我々の【内】で彼がもっとも{若い}
 01 この【リスト】でホテルを{選ん} てください

で(の) 02 現【段階】での最高{レベル}

3) 割合の基準(...につき、per...)

に 02 【月】に一{度} 打ち合わせる

につき 02 お一【人】につき1万{円}

4) 判断、知覚、陳述の根拠 (...にもとづいて、based on..., according to...)

で/から 01 この【データ】で/からこれ以上のことは{分かり} ません
 01 銀行の【調べ】で/から原因が{分かり} ました
 01 聴衆の【反応】で/から講演の良し悪しを{判断}
 する

8) 順番

- に
- 01 【最初】に {申し上げ} ましたように...
 - 01 【次】に何を {やる} のですか
 - 01 この問題は【次回】に {打ち合わせ} しましょう
 - 01 【最後】に一つお {聞き} したいのですが
- 04 【まず】コールフォーパーを {読ん} てください

9) その他

- で
- 01 先生の宿泊費は事務【局】で {負担} します
 - 01 【大阪環状線】で、大阪城公園駅で {降りる}
- ゼロ
- 01 【別途】 {注文} する
- に
- 01 【他】にどういったことが議題に {のぼり} ますか
 - 01 レディースプログラムは【別】に {設け} ております
- から
- 01 第2【章】から {始め} ましょう

注:CNDとT00

T00は行為者の意志の存在を前提にしているので原則として意志動詞と共起するが、CNDは意志動詞と共起しにくい。

- 01 【地下鉄】で [CND] 150円 {です}
- cf. 《地下鉄》で [T00] {行き} ます
- 01 【郵便】で [CND] は高く {つき} ます
- cf. 《郵便》で [T00] {送り} ます

CNDは可能動詞 と共起し易い。

- 01 会議場まで【バス】で [CND] {行け} ます
- cf. 会議場まで《バス》で [T00] {行き} ます
- 01 【ドル】で [CND] {払え} ますか

[26] PRP (PURPOSE) (目的)

定義:ある動作を行なう目標や目的、およびある物が必要とされる目的や用途(「...用」)などを示す格。

01では動作名詞 + 格助詞「に」、埋め込み文 + 格助詞「に」の形で表われることがある。

格助詞の部分を01の場合<のために>、02の場合<のための>と置換することができることが多い。

- に
- 01 ビジネス【用】に {使う} ホテル
 - 01 日程を確認する【ため】にアナウンスメントを {見} ている
 - 01 会議への【参加】に {必要} な書類
 - 01 商品の【説明】に {用いる} 資料
 - 01 研究所の【見学】に {来る}
 - 01 【プレゼンテーション】に一部屋 {用意} する
 - 01 アメリカから3人の研究者を【会議】に {招く}
 - 01 数多くの人【セッション】に {集まる}
- で
- 01 科学者のネットワークを作る【上】で {必要} だ
- までに
- 01 【参考】までにご意見を {伺い} たい
- の
- 02 参加者【用】の {コンGRESキット}
 - 02 プレス【専用】の {コーナー}
 - 02 学生【向き】の {書籍}
 - 02 先生の【分】の招待 {券}
 - 02 写真撮影の【ため】の {機材}
 - 02 スケジュールを確かめる【ため】の {電話}
 - 02 【質問】の {時間}
 - 02 【外出】の {支度}
 - 02 【ウェルカムパーティー】の {場所}
 - 02 【アブストラクト】の {費用}
 - 02 【国際コンピューター会議】の事務 {局}
 - 02 【講演】の謝礼 {費}
 - 02 【会議】の {資料}
- 04 サマリーと一緒に【送る】ように {手配} 致します
- 04 ご希望に【添える】ように {努力} 致します
- 04 他の予定を【入れ】ないよう {調整} 致します
- 04 自動翻訳システムを【研究】すべく {訪米} した

- 05 奥様方にレディースプログラムで遊んで【いただける】ように
{考え}てみます
- 05 2週間前には手元に【届く】ように印刷を{進める}
- 05 学生が利用し【易い】ように割引料金を{設定}しました
- 05 7時頃には東京に【着ける】ように列車を{予約}してください
- 05 参加者が海外との通信が即座に【できる】ようにモデムの機種を
{そろえ}ました

注:01PRP

PRP格は「埋め込み文+形式名詞」や「名詞+のために」の形で表れることが多いが、この場合01で処理する。

- 01 リストを送る【の】に郵送料が{かかる}
- 01 念の【ため】に電話番号を{申し上げ}ておきます

特に「連用形+に+行く、来る」の形で表われる場合も01で処理する。

- 01 研究所を【見】に{来る}
- 01 大阪空港まで先生を【迎え】に{行く}

また、「終止形+には」の形で表われる場合も01で処理する。

- 01 会場に【行く】にはどのバスに{乗る}のですか

[27] ROL (ROLE) (役割)

定義:役割、資格を表わす格。

主な表層格:として

- として
 - 01 企画【委員】として{参加}する
 - 01 主催【者】としてATRの名前が{でる}
 - 01 議長の候補【者】として3名を{リストアップ}する
 - 01 助手を【アカンパニーパーソン】として{連れ}て行きたい
 - 01 キャンセル【料】として20%{いただき}ます

- に
- 01 山田先生 の【代り】に {出席} する
 - 01 スケジュール問題が【議題】に {上る}
 - 01 セカンドアナウンスメントが来ることを【楽しみ】に {し} ています
 - 01 【サービス】にコーヒーを {つけ} ます
 - 01 アメリカの場合を【引合い】に {出す}
 - 01 自動翻訳機を【例】に {出し} て説明する
 - 01 登録【料】に1、000円 {受け取る}
- と
- 01 ヨーロッパを【初め】と {し} て世界各国から参加者が集まる
- として(の)
- 02 聴講【生】としての {参加}
 - 02 【スピーカー】としての {登録}
 - 02 一般参加【者】としての {扱い}
 - 02 往復の新幹線【代】としての2万2千円の {給付}
- の
- 02 【団体】の {取扱い} を受ける。
 - 02 企画【委員】の {役職} (the post of a member of the planning)

注:通常ROLがあれば、陽または陰にその役割あるいは資格の持ち主となる実体が存在する。

AGTが実体となっている例

- 01 《局長》が [AGT] 主催者【代表】として責任を {とる}

OBJが実体となっている例

- 01 補助【機材】として《スライド》を [OBJ] {使用} する

注:下記の構文における「に/と」格もROLとする。(Sはセンテンスを表わす)

1) 「AヲBニ/トシテ S」

- 01 新しい技術の開発を【目的】と/に {し} て会議を開催する
- 01 前例を【参考】に/と {し} て検討を進める
- 01 座長を【中心】に/と {し} て討論を行なう

- 01 病気を【理由】に/と{し}て会議を欠席する
- 01 学生を【対象】に/と{し}て参加者を募集する
- 01 新製品を一般に知らせることを【趣旨】に/と{し}て見本市を開く

2) 「AヲBニ S」

この構文が「AヲBニシテ S」の省略であって「する」がテキスト上で欠落していると考えられる場合、その「する」を復元して作業する

新しい技術の開発を【目的】に会議を開催する

01OBJ(開発)(#SURU#)
 01ROL(目的)(#SURU#)
 04CIR(#SURU#)(開催)

前例を【参考】に検討を進める

01OBJ(前例)(#SURU#)
 01ROL(参考)(#SURU#)
 04CIR(#SURU#)(進める)

以下類例

- 01 座長を【中心】に討論を行なう
- 01 病気を【理由】に会議を欠席する
- 01 学生を【対象】に参加者を募集する
- 01 新しい製品を一般に知らせることを【趣旨】に見本市を開く

[28] RNG (RANGE) (範囲規定、関係)

定義:用言の及ぶ範囲、関係を規定。

いわゆる二重主語文の二つ目の主語。

「だ」文の主語で“is a”関係が成り立たないのでOBJにならないもの。

主な表層格:が、に

1) 範囲規定

- に
- 01 【数】に限りがある
 - 01 機械【翻訳】に興味があります
 - 01 今後の【展開】に希望が持てる
 - 01 発表の【内容】に問題を感ずる
 - 01 【英語】に自信がない
 - 01 大阪の【地理】に詳しくない
 - 01 【機材】に保険をかける
 - 01 登録料の設定の【仕方】に意義をはさむ
- について
- 01 【日程】について知りたい
 - 01 【AI】について発表します
- に関して
- 01 登録料の【こと】に関してききたいのですが
 - 01 渡航【費】に関しては自己負担です
- の
- 02 【エキスパートシステム】の分科会
 - 02 【見本市】のパンフレット
 - 02 【トピック】の欄
 - 02 【費用】の詳細

2) 二重主語

- が
- 01 【先生】が顔がお広いので...
 - 01 事務【局】が金が無い
 - 01 前田【さん】が才能がある
 - 01 【従業員】が態度が悪かった
 - 01 【内容】がコンピュータに関係があれば...

注:二重主語の「が」は係助詞「は」になることが多い。

注:二重主語の場合RNGになるものとOBJになるもの間には02の関係があることがある。

- 02 やはり英語 《圏》が参加{者}が多い

02SPF(圏)(者)

3) 「だ」文の主語

- が
- 01 【会議】が15日から{だ}
 - 01 【晩餐会】が第3日{です}
 - 01 【学生】が10、000円{です}

[29] DGR (DEGREE) (程度)

定義:変化、移動、状態、動作などの程度、頻度、数量を規定する格。

主な表層格:01の場合表われない

- ゼロ
- 01 詳しいことが【全部】{書い}てあります
 - 01 名前をもう一【度】{申し上げ}ます
 - 01 バスが2【種類】{で}ています
 - 01 サブセッションにはいく【つ】{参加}できますか
 - 01 シングルルームを6【部屋】{とっ}ておく
 - 01 準備は7【割】{終了}しました
 - 01 規定料金から20【%】{割り引き}ます
 - 01 キャンセル料を15、000【円】{いただき}ます
 - 01 講演は【一部】英語で{行なわ}れます
 - 01 時間はどれ【ぐらい】{かかり}ますか
 - 01 当方で【色々】{アレンジ}するつもりです
 - 01 まだ【十分】余裕が{あり}ます
 - 01 そのテーマは両方【とも】{取り上げ}られます
- ゼロ
- 02 1週【間】ほど{前}に
 - 02 1カ【月】くらい{後}
- の
- 02 3【人】の{学生}が参加する
 - 02 【全部】の{セッション}に出ます
 - 02 1万【円】の{会費}
 - 02 200【ワード】の{サマリー}
 - 02 【一部】の{払い戻し}
- 04
- 【ちょっと】{待っ}てください
 - 【全く】{考え}ていません
 - 人数は【たくさん】{入れ}ますか
 - 会議場は京都駅からは【かなり】{離れ}ています

- 04 参加費が【少し】 {高い} ような気がします
 04 私は大阪の地理には【あまり】 {詳しく} ありません
 04 今後とも【さらに】 検討を {重ね} ます
 04 何かあれば【また】 お {電話} してください
 04 【誠】 に {恐縮} ですが...
 04 【できる】 だけ {早く} 参ります

注: DGRか否か

文型01の場合、表層に格助詞が出ているかどうかで判断する。

格助詞が存在→DGRにはしない

- 01 会議登録料の3万《円》を [OBJ] {払う}
 01 1000《ドル》を [OBJ] 日本円に {両替} する
 01 3《人》が [AGT] {欠席} した

 01 アメリカ人10《人》が [AGT] {出席} する
 (「アメリカ人10人」は名詞連鎖)

 01 会議登録料3万《円》を [OBJ] {払う}
 (「会議登録料3万円」は名詞連鎖)

 01 バス2《種類》が [UVA] {で} ています
 (「バス2種類」は名詞連鎖)

格助詞が存在しない→DGRにする

- 01 会議登録料のうち3万【円】だけ {払う}
 01 所持金を1000【ドル】ぐらい日本円に {両替} する
 01 参加するはずの人が3【人】も {欠席} した

ただし表層作業においては、だぶりが生じない限りにおいて格助詞を復元した。(DGRとは考えない方向)

- 3万円払う→01(3万円)を(払う)
 3万円だけ払う→01(3万円)を(払う)
 会議登録料のうち3万円だけ払う→01(3万円)を(払う)

- cf. 会議登録料を3万円だけ払う→01(料)を(払う)
 01(3万円)e(払う)

注：DGRとTMD

時間の長さを示す語はDGRになる場合とTMDになる場合がある。
時間の量を必須格、準必須格として要求する動詞(「かかる」、「経過する」、「過ぎる」など)の場合は、その数量表現(属性値)はDGRにし、TMDにはしない。

01 東京から大阪まで《時間》が [OBJ] 3 【時間】 {かかり} ます
cf. 東京から大阪まで特急《料金》が [OBJ] 5千【円】
{かかり} ます

01 前回の会議から《年月》が [OBJ] もう2【年】も {経ち} ました

必須格にはならず、動作、状態に対する継続する時間的背景を表出する語はTMDにする。

01 3《時間》 [TMD] {討議} する
01 ここ2カ《月》 [TMD] 程会議の準備で {忙しい}
02 3《時間》の [TMD] {会議}

注：副詞による連体修飾

副詞による連体修飾の内多くのものは程度表現であるが、この場合文型は02にする。

02 【もう】 [DGR] 一 {度} 相談します
02 【ちょっと】 [DGR] {右} にあります
02 【一番】 [DGR] {最初} に発言する
02 【ほとんど】の [DGR] {分野} で研究発表があります
02 演壇の【すぐ】 [DGR] {そば}
02 【それぞれ】の [DGR] {カテゴリー}
02 【ごく】 [DGR] {少数} の人々
02 【約】 [DGR] 10 {人}

注：形容名詞による用言類の修飾は深層作業では文型が01になるが表層作業では04で扱う。

会議を非常に楽しみにしています

深層作業 01DGR(非常)(し)

表層作業 04(非常)(し)

形容名詞を副詞が修飾している場合は以下のように作業する。

ごく簡単に説明致します

深層作業 02DGR(ごく)(簡単)

01DGR(簡単)(説明)

表層作業 04(ごく)(簡単)

04(簡単)(説明)

注:序数

序数はDGRにはせずAVOにする。

02 5人《目》の [AVO] {スピーカー}

02 3回《目》の [AVO] {会議}

02 第《2》の [AVO] {提案}

[30] PRD (PREDICATIVE) (陳述)

定義:「だ文」に表われる助動詞「だ」の前の構成要素。

ただし構成要素に用言性がある場合はPRDをつけず、その構成要素を用言とみなすことがある。

文型は原則として01に限られる。

「だ」以外では「です、みたいだ、ようだ、らしい」などが同様の動きをする。

PRDになるか否かの判断

「だ」の前の部分に用言性があるかないかで決める。用言性とは陳述性、動作性を意味する。用言性があれば、その部分自体が格をとるので「だ」は格をとらない。

以下にPRDになるパターンとならないパターンを具体的に記述する。

A) PRDになるパターン

1) 用言性が弱い普通名詞の「だ文」

- 01 会議登録料は3万【円】 {だ}
- 01 座長はアメリカ【人】 {です}
- 01 開会は9時【頃】 {らしい}
- 01 C A Iは【テレビ】 {みたいで} おもしろい。

2) 格助詞+「だ文」

- 01 会議は27日から30【日】まで {だ}
- 01 何【時】から {なら} 大丈夫ですか
- 01 希望どおりの【コース】の {ようだ}

3) 形式名詞の「だ文」

- 01 今後新製品の開発に力をそそぎたい【もの】 {だ}
- 01 ビザはすぐにおりる【はず】 {です}
- 01 事務局の意向で、は登録だけでも至急済ませろという【こと】 {らしい}
- 01 企画委員会は計画書を今後1週間以内にまとめる【つもり】 {みたいだ}

注:「のだ」型は作業対象外

「のだ」「のです」のうち準体助詞の体言化の意味がほとんど感じられず、口語では「んだ」「んです」となることも多いタイプ。

会議に参加し 《たい》 のですが手続きを {教え} てください
(cf. 会議に参加したいんですが...)

05PRL(たい)(教え)

「のです」は作業対象外になるため、前半の文のheadは「たい」になる。

B) PRDにしないパターン

1) 形容名詞の「だ文」

形容名詞は用言性を有しているため格関係を持ち得る。形容名詞の語幹に

「だ」がつく場合は形容名詞の部分を用言とする。このため「だ」は作業対象外になり形容名詞と「だ」の間は01PRDにならない。

《それ》で {結構} です

01CND(それ)(結構)

《内容》が《全く》 {同じ} です

010BJ(内容)(同じ)

04DGR(全く)(同じ)

電車の《方》が《バス》より {便利} です

010BJ(方)(便利)

01COR(バス)(便利)

2) サ変名詞の「だ文」

サ変名詞は用言性を有しているのが格関係を持ち得るが、サ変名詞の語幹に「だ」がついている場合、以下の考え方に従う。

2-1 サ変名詞の前に格助詞「の」があるときは機能上名詞と考え用言としない。サ変名詞と「だ」との間は01PRDとする。

今回の会議には参加の【予定】 {です} か

020BJ(参加)(予定)←「予定」は名詞扱い

01PRD(予定)(です)

終了時刻の【問い合わせ】 {です}

020BJ(時刻)(問い合わせ)←「問い合わせ」は名詞扱い

01PRD(問い合わせ)(です)

2-2 サ変名詞の前に格助詞「の」がないときサ変名詞の部分を用言とする。このため「だ」は作業対象外になりサ変名詞と「だ」の間は01PRDにならない。

《長尾教授》は {欠席} です

01AGT/TOP(教授)(欠席)

6 《時》にロビーのフロントの《前》に {集合} です

01TMA(時)(集合)

01SPA(前)(集合)

3) 転成名詞の「だ文」

転成名詞は用言性を有しているので格関係を持ち得るが、転成名詞の語幹に「だ」がついている場合、以下の考え方に従う。

3-1 転成名詞の前に格助詞「の」があるときは機能上名詞と考え用言としない。転成名詞と「だ」との間は01PRDとする。

《原因》は振込み番号の【間違い】 {でし} た

010BJ/TOP(原因)(でし)

020BJ(番号)(間違い)←「間違い」は名詞扱い

01PRD(間違い)(でし)

3-2 転成名詞の前に格助詞「の」がないとき転成名詞の部分を用言とする。このため「だ」は作業対象外になり転成名詞と「だ」の間は01PRDにならない。

15 《日》が {締切} です

010BJ(日)(締切)

晩餐会にも《参加》をお {申込み} ですか

020BJ(会)(参加)←「参加」は名詞扱い

010BJ(参加)(申込み)

4) その他の用言性のある名詞の「だ文」

ある種の普通名詞は用言性を有している。これらの名詞が「だ」の前につく場合はこの名詞の部分を用言とする。このため「だ」は作業対象外になり

名詞と「だ」の間は01PRDにならない。

《これ》で伺いたい《こと》は {すべて} です

01CND(これ)(すべて)

010BJ/TOP(こと)(すべて)

《部屋》は3《人》 {一緒} です

010BJ/TOP(部屋)(一緒)

01DGR(人)(一緒)

5) 副詞の「だ文」

原則として副詞は用言性を有しているのので格関係を持ち得る。従って、副詞に「だ」がつく場合は原則として副詞の部分を用言とする。その際「だ」は作業対象外になり副詞と「だ」の間は01PRDにならない。

《会場》までは {すぐ} です

01SPT/TOP(会場)(すぐ)

《出費》は {少し} だった

010BJ/TOP(出費)(少し)

注:「そうです」は作業対象外にする。

申込みの締切は8月31日ですか。

はい、そうです。

上例の「そう」は副詞であるが、この場合「そう」と「です」の間のPRDはなりたたない。このためこの種の「そうです」は一切の作業が不要になる。

注:「いくら」

「いくらですか」という問いに対しすぐに「300円です」という答が返ってくるように、「いくら」は数字に近い意味を持っている。本作業においては数字を用言とは認めなかったため、「いくら」という副詞も用言として扱わなかった。このため深層作業においては次のように処理していた。

01PRD(いくら)(です)

深層、表層を同時につける時になり、文型決定の際に
品詞番号8(副詞)と12(助動詞)の関係を重要視し04で作業するように変えた。
この結果04PRDというデータが生じた。

04PRD(いくら)(です)

表層のみの作業になった後も04で作業している。

04(いくら)(です)

6) 文+副助詞+「だ文」

副助詞が文のあとにつくと、文を名詞化することがある。そして副助詞の後ろに「だ」がつき得る。この場合文のheadをなす用言と「だ」の間をPRDで作業する。

もう原稿を【清書】するばかり {です}

01PRD(清書)(です)

あとは日程を【確認】するだけ {です}

01PRD(確認)(です)

[31] COR (COMPARISON) (比較)

定義:比較、優劣の基準となる対象。

主な表層格:を、より

- を 01 参加登録者は400【人】を{越え}ました
- 01 締切まで一週【間】を{切り}ました
- 01 安い時期ですと10万【円】を{割る} ツアーもあります
- 01 【予算】を遙かに{オーバー}してしまった
- 01 前回の【実績】を{上回}った

- より 01 大阪城公園駅の方が【京橋駅】より会場に {近い}
- 01 会場は実際には見た【目】よりも {広い}
- 01 スライドを【使う】よりもOHPを使った方が {よい}
- 01 スピーチの時間は40【分】よりも {長く} はなりません
- 01 【買物】よりも観光を {優先} したい
- 01 【予定】よりも1日 {延び} た
- ゼロ 01 値段は【以前】ほど {高く} ない
- に 01 早めに【予約】するに {こし} たことはない
- 01 【会議】に {先立ち}、委員長から一言ご挨拶申し上げます

注:CORの場合、比べられる対象同士は対をなしており、互いに同じ、または等価の意味素性をもっている。

[32] TOP (TOPIC) (話題提示)

定義:TOPは、他の「格」と本質的に異なる。「は」は、他の表層格(が、を、に、へ等)が話題化(topicalize)されたものと考え。すなわち、元の表層格「が、を、に、へ」などがそれぞれ話題化されて「は」になり、元の表層格(が、を、に、へ等)は消去されたと考えるのである。このような場合まず深層の格をつけた後、更にTOPをつける。以下TOPが付き得る主なパターンを記述する。

AGT/TOP

- 01 【シャープ】は半導体に力を {入れ} ております
- 01 私【たち】は3日以上続くツアーを {探し} ています

UVA/TOP

- 01 飛行【機】は11時に {到着} する
- 01 【バス】は駅の北口から {出} ます

UVS/TOP

- 01 私どもの【学会】は地域を {代表} しております
- 01 新【技術】は前述の理論に {基づい} ている

OBJ/TOP

- 01 【書類】はもう {まとめ} ました
- 01 彼の研究の国際的【評価】は {高い}

EXP/TOP

すでに他で「が」格が表われている場合、EXPになる格は「が」格としてではなく係助詞「は」として表われることが多い。

- 01 【我々】はその決定に納得が {いか} ない
- 01 その【通訳】は英語とフランス語が {できる}
- 01 招待【客】は宿泊料金を安く {設定} してもらった

PRT/TOP

- 01 外国からいらした【方々】は通訳がご {一緒} します
- 01 これほどの【学者】はアメリカでもなかなか {会え} ない

REC/TOP

- 01 【山田教授】はもう私から謝礼を {差し上げ} た

ORG/TOP

- 01 民間企業の参加者からは3万円、大学の参加【者】は2万円 {ください} ております

TMA/TOP

- 01 1日【目】は全体会議が {開か} れます
- 01 【現在】は私は東大阪大学で {教え} ています

TMD/TOP

- 01 講演者が話している【間】は何もする必要が {ない}
- 01 2週【間】ぐらいはアメリカに {行っ} ていたい

SPA/TOP

- 01 時差があるので今【日本】は夜の10時 {です}

SPT/TOP

- 01 会場の【方】は空港からタクシーで {行き} ます

SPR/TOP

- 01 【京都】は今度 {回る} ことにします

DGR/TOP

- 01 講演は7【割】は英語で {行なわ} れます
- 01 会議には当社から3【人】ぐらいは {出席} できるでしょう

- 01 【我々】はその決定に納得が {いか} ない
01 その【通訳】は英語とフランス語が {できる}
01 招待【客】は宿泊料金を安く {設定} してもらった

PRT/TOP

- 01 外国からいらした【方々】は通訳がご {一緒} します
01 これほどの【学者】はアメリカでもなかなか {会え} ない

REC/TOP

- 01 【山田教授】はもう私から謝礼を {差し上げ} た

ORG/TOP

- 01 民間企業の参加者からは3万円、大学の参加【者】は2万円
{ください} ております

TMA/TOP

- 01 1日【目】は全体会議が {開か} れます
01 【現在】は私は東大阪大学で {教え} ています

TMD/TOP

- 01 講演者が話している【間】は何もする必要が {ない}
01 2週【間】ぐらいはアメリカに {行っ} ていたい

SPA/TOP

- 01 時差があるので今【日本】は夜の10時 {です}

SPT/TOP

- 01 会場の【方】は空港からタクシーで {行き} ます

注:TOPをつけないパターン

下記の場合は、元の表層格が存在しているのでTOPを付けない。

- 《柴田先生》にも [REC] {連絡} しておいてください
6《時》には [TMA] {来れ} ます

[33] NOM (NOMINATION) (命名)

定義:「...を...と」型の命名動詞のいわゆる目的格補語として表われる
「と」格。

主な表層格:と

- と
- 01 スミス【さん】と {おっしゃる} 方から電話がありました
 - 01 私は日本コンピューターシステムの【菊田】と {申し} ます
 - 01 私の名字は【イナガキ】と {読み} ます
 - 01 「機械翻訳システムの将来【】」と {題し} た論文
 - 01 サテライトシンポジウムの名前を
【MASシンポジウム】と {名付け} ました
 - 01 私のことは【ジョン】と {呼ん} てください
 - 01 新しく出す雑誌に「AIジャーナル【】」と名前を {つける}

[34] CON (CONTENT) (内容)

- 定義:1) 広く認識、思考、判断、発言(引用句)などの用言の内容を表わす格。
2) 助動詞、補助動詞などの埋め込み文を表示する格。
3) 通常は「と」格をとらない用言が「と」格を介して名詞と結び付いている場合。

1) 用言の「内容」

主な表層格:と

- と
- 01 会議に参加し【たい】と {思い} ます
 - 01 会議は26日から【始まる】と {書い} てありました
 - 01 委員長を【引き受け】ようと {決意} しました
 - 01 すぐに【送金】しようと {考え} ていたのです

注:02CONと03d

「名詞 + 機能動詞」全体で一つの動詞のようなはたらきをしている場合。
下記の例では名詞部分がCONをとる実体であり、用言部分は機能動詞であるので、深層作業ではCON格の語と名詞部分の間を02CONで処理した。ただし表層作業では03dになる。

明日なら完成すると返事をした

深層作業 02CON(完成)(返事)
表層作業 03d(返事)(完成)

なんら問題はないと判断を下した

深層作業 02CON(ない)(判断)
表層作業 03d(判断)(ない)

日本も随分変わったと思いをあらたにしました

深層作業 02CON(変わっ)(思い)
表層作業 03d(思い)(変わっ)

柴田教授にお目にかかれると夢に見ていました

深層作業 02CON(かかれる)(夢)
表層作業 03d(夢)(かかれる)

参加費が高いのではないかという意見が出されました

深層作業 02CON(高い)(意見)
表層作業 03d(意見)(高い)

団体割引制度をつくって欲しいという注文がありました

深層作業 02CON(欲しい)(注文)
表層作業 03d(注文)(欲しい)

今のところ15日に日本に到着する予定でいます

深層作業 02CON(到着)(予定)
表層作業 03d(予定)(到着)

この会議が公式のものだという証明が必要です

深層作業 02CON(だ)(証明)
表層作業 03d(証明)(だ)

注:一語文

「一語文」の場合もCONにする。

01 【25日】と{思っ}ていました

一語文の場合間投詞、感動詞なども記述対象になってかまわない。

01 思わず【えっ】と {叫ん} でした

副詞の一語文は深層作業では01CONであるが表層作業でも01で扱う。

きつとと言いました

深層作業 01CON(きつと)(言い)

表層作業 01(きつと)と(言い)

注: CONとOBJ

CONはOBJの特殊なケースである。「埋め込み文ならCON、名詞句ならOBJ」の原則に従う。

01 参加料が問題【だ】と {考える}
cf. 参加料《問題》 [OBJ] を {考える}

01 会議が【成功】したと {伝え} た
cf. 会議の 《成功》 [OBJ] を {伝え} た

2) 埋め込み文と助動詞、補助動詞

助動詞、補助動詞の埋め込み文(格関係に影響を持つもの)

受身、使役、可能、授受表現などを表わす補助動詞、助動詞は格関係に影響があるので本動詞、サ変動詞と補助動詞、助動詞の間、また補助動詞、助動詞相互の間を01CONで作業する。

01 是非とも今回の会議に【参加】し {たい}
01 御社の雑誌に会議の記事を【のせ】 {たい} のです
01 事務局の岡本までご予約を【連絡】して {いただけ} ますか
01 先生にお【引受け】 {いただけ} れば大変有難いのですが
01 必ず期日までに【郵送】さ {せ} ます
01 私が【担当】さ {せ} ていただきます
01 私が担当さ【せ】て {いただき} ます
01 2、3日以内にお【電話】 {できる} と思います
01 勝手ですがお【願ひ】 {でき} ますでしょうか
01 25日までに必ず【振込ん】で {もらえ} ますか
01 中田さんに【話し】ておいて {もらえ} ますか
01 芝生さんは本当に良く【やっ】て {くれ} ました

- 01 何時までに案内を【送っ】て {くれ} ますか
- 01 私どもではそこまでは責任を【持ち】 {かね} ます
- 01 私ではちょっと【分かり】 {かね} ます
- 01 書類の不備を事務局の方に【指摘】さ {れ} ました

3) 強引な「と」格は広い意味での「内容」ととりCONとする。

- と
 - 01 参加者500【名】とかなり {多い}
 - 01 【大阪-東京-トロント】と {帰る} ことになっている
(固め処理)
 - 01 こういったことは二【回】と {続かない}
 - 01 手前からバス乗り場が京都【行、大阪行、神戸行】と {並ん} でいます

- と
 - 02 海外からの参加者は300【人】と新 {記録} でした

[35] EVA (EVALUATION) (価値判断)

定義: 節全体を修飾し、話者の価値判断を示す。副詞などがEVAになる場合、連用修飾ではなく文修飾と考えて05で処理する。(文修飾の連用成分)

- に
 - 01 うまい【こと】に、日程の調整が {つき} ました
 - 01 コダックの工場見学は【本当】に中止に {なっ} たのですか
 - 01 喜ばしい【こと】に菊田先生が座長就任を承諾して {ください} ました

- ゼロ
 - 01 【幸い】病気は軽くて {済み} ました
 - 01 【残念】ながら会議に出席できなく {なり} ました
 - 01 【当然】最終日まで {おり} ます

- 05 【勿論】私も {参加} します
- 05 【やはり】英語圏からの参加者が {多い}
- 05 【多分】1週間ぐらいで {出来上がり} ます
- 05 先生も【恐らく】御 {存知} だとは思いますが...
- 05 【きっと】お引受け {いただける} と思っておりました
- 05 【確か】8時からパーティー {だっ} たとは思いますが

05 【あいにく】急に仕事が {入っ} てしまって...

注: EVA のテスト

EVAの部分を文の外に出して言うことができる。

01 【残念】ながら会議に出席できなく {なり} ました
→会議に出席できなくなったのは残念だ

01 【幸い】病気は軽くて {済み} ました
→病気が軽くてすんだのは幸いでした

05 【勿論】私も {参加} します
→私が参加するのは勿論だ

注: 形容名詞による用言類の修飾は深層作業では文型が01になるが表層作業では05で扱った。

参加費は【確か】に15日に {振込み} ました

深層作業 01EVA(確か)(振込み)

表層作業 05(確か)(振込み)

[36] CNC (CONCESSION) (譲歩)

定義: 譲歩、逆接を示す連用修飾成分。

04 ちょっと【高】そうだけれども {よ} さそうですね

04 【あわて】てみても仕方 {ない}

04 団体旅行と【いっ】ても自由時間はたっぷり {あり} ます

05 一人で会議に行く予定【でし】たが、妻も同伴することに
{なり} ました

05 昨日まででしたら登録料の30%はお返し【でき】たのですが、
今日からはキャンセル料が50%に {なり} ました

05 先生の大阪での滞在費は当方で負担させて【いただき】ますが、
東京での費用は御本人でお {支払い} なさってください

[37] ADD (ADDITION) (追加)

定義:情報の追加。

主な表層格:に

- に
- 01 金利が下がる【上】に、マル優が{廃止}された
 - 01 【OHP】、【スライド】にハンドマイクを{使っ}た
 - 01 和子(かずこ)の和は【のぎへん(禾)】に「口」を{書き}ます
 - 01 【萩】に【松江】に津和野を{訪ね}たい

注:「私も行く」の「私も」における、「追加」の意味は「も」の語彙的意味によるのであり、「私」の格としての意味によるのではない。

「私」の格としての意味はADDではなく、AGTである。

注:ADDか否か

A+「に」+Bにおいて、AがBに従属する場合(AとBは対等ではない)にADDにする。従属しないただの並列関係(A+「と」+Bで表わされることが多い)はADDにしない。

《パソコン》と《ワークステーション》を{使う}

010BJ(パソコン)(使う)

010BJ(ワークステーション)(使う)

[38] CIR (CIRCUMSTANCE) (付帯状況)

定義:付帯状況を表示する格。主文の動作や現象の背景をなす状況、および同時に起こる動作や現象を示す。

- ゼロ
- 01 教授はお忙しい【ところ】時間を{割い}てくださった
 - 01 お仕事が大変な【中】わざわざご{足労}いただきありがとうございます

で

- 01 家内【同伴】で会議に{出席}する

04 50名位の方を【連れ】でテクニカルツアーに{でかける}

04 コーヒーでも【飲み】ながら打ち合せを{行なう}

- 04 家内を【つれ】で会議に{出席}する
 04 書類を【持っ】てそちらに{行き}ます
 04 A T Rが中心に【なっ】て会議を{開催}する
 04 今伺ったことを参考に【し】て計画を{たて}ます
- 05 白黒のコピーを見て【いただき】ながらカラーをスライドでお{見せ}する

[39] VIE (VIEWPOINT) (観点)

定義:思考動詞、発言動詞と共に起し、その観点を表示する格。

- で 01 地下鉄の【駅】で{言う}と表参道です
- から 01 日数の【面】から{考える}とちょっと足りない気も
 します
 01 金額の【点】から{する}とまだ国産の方がよい
- から(の) 02 経営【面】からの{判断}

注:形容名詞による用言類の修飾は深層作業では文型が01になるが表層作業では04で扱った。

【スケジュール的】に{言っ}て厳しい

深層作業 01VIE(スケジュール的)(言っ)
 表層作業 04(スケジュール的)(言っ)

【法律的】に{見}てどうですか

深層作業 01VIE(法律的)(見)
 表層作業 04(法律的)(見)

[40] SEL (SELECTION) (選択)

定義: 選択の範囲、対象。

- の
 - 02 【スライド】の {一部}
 - 02 招待講演【者】の {人}
 - 02 会議で使う【部屋】の {それぞれ}
 - 02 【京都ホテル、京都プリンスホテル、京都ロイヤルホテル】の {どれ} になさいますか
 - 02 セッションの【内】の {どれ} に参加されますか
- で
 - 02 ラップトップ式の【コンピュータ】で本社のメインフレームにつなげるような {機械} (コンピュータでつなぐのではない)
 - 02 会議の参加【者】でAIに興味のある {方}
- ゼロ
 - 02 参加している【人】 {全て}

注: 逆SEL

SELを逆にするとDGRになることがある。

- 02 招待講演【者】の [SEL] {人}
→ {人}の [DGR] 招待講演 {者}

[41] EXM (EXAMPLE) (例示)

定義: 具体的な例を示す格。

一般に、EXMは被修飾語句の下位概念で、より具体的である。

置き換え可能な形式 <たとえば...のような...>

<たとえば...をふくむ...>

- の
 - 02 【バス】などの交通 {機関}
 - 02 【コーヒー】、【紅茶】、【日本茶】などの {飲物}
- ゼロ
 - 02 【富士通】、【松下】など色々な {会社}
 - 02 【余興】とかそういった {もの}
 - 02 講演者の【名前】、【所属】、【演題】とかそういった {内容}

[42] POS (POSSESSOR) (所有者)

定義: 所有する主体を表わす有生名詞。

置き換え可能な形式 <...のもっている...>

以下にPOS格であると判断する基準について記述する。

N1 + N2において、

1) N1がN2を所有している場合

N1は典型的には有生名詞またはそれに準ずる名詞。

(意志性を有する)

- の 02 【先生】の測定 {データ}
- 02 私【ども】の {会社}
- 02 【わが】 {国}
- 02 【シャープ】の研究 {所}
- 02 【市】の総合 {病院}
- 02 【JR】の {駅}

2) N1とN2の間に広い意味での所有関係、所属性があると思われる場合

N1が有生名詞でない場合でも他に適当なコードがないので POSとしてもよい。

(「がもつ」で一応置き換え可能)。

その場合N2は属性を表わすものであってはならないものとするが、属性かどうか判断のつきにくいときはPOSを優先する。(特にN2が抽象的なものである場合に多い。OATの項参照)

2-1 N2の意味が抽象的で広く、はっきりした属性とは考えにくい場合
(POS>OAT)

- の 02 基調講演【者】の {履歴} / {略歴} / {経歴} /
{プロフィール} / {肩書} / {役割} /
{スケジュール}
- 02 【会社】の {概要} / {特徴} / {現状}
- 02 参加【者】の {自由} / {意向} / {印象} / {心理}
- 02 【国民】の {権利} / {義務} / {姿}
- 02 飛行【機】の空席 {状況}
- 02 人工【知能】の {限度}

2-2 N1が有生名詞ではないが抽象名詞などであり、N2の意味も抽象的な場合 (POS>OAT)

- の 02 【責任】の {所在}
- 02 【時間】の {都合}
- 02 【仕事】の {意味}
- 02 【講義】の {内容} / {目的} / {中身} / {テーマ}
- 02 【会議】の {主旨}
- 02 【質問】の {要旨}

[43] AUT (AUTHOR) (作成者)

定義：一定の目的へ向けて意図的に努力して、「作品」(PRODUCT)を作ったり、育てたり、アレンジしたりする主体。作成者、発明者、主催者を含む。「作品」の意味は広くとり、イベント(国際会議、パーティーなど)なども含まれるものとする。

置き換え可能な形式 <...のつくった...> <...のひらいた...>

- の 02 【ミノルタ】の事務 {機}
- 02 御【社】の {雑誌}
- 02 【山田教授】の {サマリー}
- 02 【パンナム】の {フライト}
- 02 【コダック】の {X B 2 7 5}
- 02 主催者【側】の最終 {案}
- 02 当【社】の新 {製品}
- 02 【アメリカン・エクスプレス】の {カード}
- 02 【BBC】の {番組}
- 02 【JR】の指定 {券}

注：AUTとAGT

後ろの名詞がサ変の動作名詞なら原則として02AUTにはせず02AGTにする。

02 《我々》の [AGT] {提案}

02 【我々】の [AUT] {書}

注：AUTとPOSとRNG

AUTであるかPOSであるかRNGであるかは文脈から判断される意味によって決る。

柴田先生の本

柴田先生が書いた本=02AUT(柴田先生)(本)

柴田先生の持っている本=02POS(柴田先生)(本)

柴田先生のことを書いた本=02RNG(柴田先生)(本)

注:代名詞の処理

代名詞の場合は文脈によりいろいろな意味を持ち得るので、その意味に応じて深層格を使い分ける。

そちらの会議

その場所で開かれる会議=02SPA(そちら)(会議)

その人達が開く会議=02AUT(そちら)(会議)

注:SPFとAUT

排出物などはN1がAUTであるとは考えにくく(意図的な努力が感じられない)「...からでる」という場所性の方が強いので、SPFとする。

- の 02 《火山》の [SPF] {噴煙}
- 02 《車》の [SPF] 排気 {ガス}
- 02 《モーター》の [SPF] {騒音}

[44] APP (APPOSITION) (同格)

定義:同じ指示物の異なる表現

置き換え可能な形式 <...つまり...>

- の 02 【残り】の2 {つ}
- 02 大阪大学工学部【教授】の {辻井先生}
- 02 会議の【前日】の10月26 {日}
- 02 岡本【さん、前田さん】の {二人}
- (固め処理)
- 02 27【日から28日】の3日 {間}
- (固め処理)

- ゼロ 02 登録の【際】、つまり会議の始まる {前} に...
- 02 講師謝礼【費】、つまり先生へのお {礼}
- 02 【キーノート】、すなわち基調 {講演}
- と 02 【50インチ、80インチ、100インチ】と3 {種類}
- あります
- (固め処理)

[45] WHL (WHOLE) (全体)

定義:部分に対する全体を示す格。

N1とN2が共通の意味素を持ち、N1とN2の間に全体-部分の関係がある場合。

また、N1とN2は不可分である(N2がなければN1は存在し得ない)。

注:【 】の語が { }の語にWHL格でかかるものとする。

- の 02 1990【年】の {10月}
- 02 【16日】の {夕刻}
- 02 この【本】の第一 {章}
- 02 【大阪市】の {北区}
- 02 2日【目】の {午前}
- 02 【ホテル】の3 {階}
- 02 【外務省】のビザ {課}
- 02 【工学部】の電子工学 {科}
- 02 今回の【会議】の分科 {会}
- 02 【JTB】の {大阪支店}
- 02 【プログラム】の3ページ {目}

注:WHL でないもの

N1とN2が同じ意味素を持っていない場合はWHLにならない。

- 02 《ホワイト教授》の [POS] {姿}
- 02 《会議》の [POS] {精神}

[46] PAR (PART) (部分)

定義:全体に対する部分

- の 02 生産管理システムにつき40【分】、QC活動につき
1【時間】、Q&Aで20【分】の合計二【時間】

[47] REL (REFERENCE FOR RELATION) (関係の基準)

定義:相対語などにおける基準を示す格。

1) 相対語の基準を示す場合

「右-左」「中-外-前-後ろ」「兄-姉-妹-弟」「東-西-南-北」のように、はっきり対立する語や対をなす語が陰に陽に存在するものを相対語と考える。(ただ「隣」とか「近く」と言っただけは限定され得ない。「ホテル」や「駅」があってはじめてはっきりする)

- の 02 【ホテル】の{隣}
02 【駅】の{近く}
02 【日本】の{国内}
02 【東京駅】の{正面}
02 【ATR】の{社内}
02 晚餐【会】の1時間{前}

06 {中}に資料の入っている【紙袋】

注:以下のような場合、副詞ははっきりとした相対観念を示すわけではないが、前にたつ名詞により限定を受けているのでRELと考える。文型は04になる。

- 04 【今月】{一杯}
04 【来月】{草々}

注:この場合、N1 [REL] + N2においてN1がN2を規定している。

- 02 会議【室】の{中}
(N1「会議室」によりどこの中かが明確になる)

- 02 【私】の {妻}
 (N1「私」により誰の妻かが明確になる)

注: 相対語の場合、見方(立場)を変えると関係が変わるという特徴がある。

- 02 【私】の {父}
 (自分から見れば「父」であるが祖父から見れば「息子」である)

2) 機能語的名詞にかかる場合

N1に用言性がなく、N2が機能語的。

- の 02 【病気】の {為}
 02 お客様【様】の {場合}
 02 【学生】の {内}
 02 【教授】の {ところ}
 02 会議【場】の {方}
 02 【香港】の {他}
- ゼロ 02 今の【住所】 {あて}
 02 小規模の【セッション】 {用}
- という 02 【レディースプログラム】という {の}
- といった 02 10万【円】といった {ところ}

注: REL格の語に修飾されるとその影響をうけて意味の転移が起こることがある。
 下記の例ではREL格「風邪」の意味特徴が「ため」という機能語に移り、「ため」にCAUという深層格がつくことになる。

- 01 《風邪》 [CAU] で委員会を {欠席} します

- 01 【風邪】の {ため} に委員会を欠席します

02REL(風邪)(ため)

01CAU(ため)(欠席)

注:RELとWHLの境界

前述のとおりRELのかかる対象は相対語や機能語的名詞が多いが、N1とN2が別々の意味特徴をもち、N1とN2が不可分ではないものをRELと考える。また、抽象名詞はWHLよりもRELになり易い。

- 02 【ホテル】の {正面}
- 02 開会【式】の {冒頭}
- 02 第3【章】の {最初}
- 02 【1月】の {終り}

WHLにおいてはN1とN2が共通の意味特徴を持ち、N1とN2の不可分性が表われる。

- 02 《ホテル》 [WHL] の正面 {玄関}
(N1もN2も場所を示す)
- 02 《1月》 の [WHL] {25日}
(N1もN2も時間を示す)

[48] DLM (DELIMITER) (限定)

定義:連体詞、指示詞、疑問詞、特定、不特定限定詞等を含む限定表現。

- ゼロ 01 【何】か {あれ} ば何時でもおっしゃってください
- 01 【何】か {送っ} ていただけますか
- 01 【誰】か {欠席} しましたか
- 01 その他に【どこ】か {あり} ますか

- ゼロ 02 【この】 {まま}
- 02 【その】 {会議}
- 02 【あの】 {会社}
- 02 【どの】 {人}
- 02 【誰】か他の {人}
- 02 【どこ】か観光に良い {ところ}
- 02 【いわゆる】 {アブストラクト}
- 02 【そんな】 {形}
- 02 【ある】 {人}

- の 02 【別】の {人}
 02 【他】の {ホテル}
- 04 【何なりと】 {おっしゃっ} てください
 04 【何にも】 {決っ} ていない

注:連体詞扱いにするもの

「こういった」はTISファイル(形態素解析)では

「こう(副詞)+いっ(本動詞)+た(助動詞)」

になっているが、本作業においては連体詞としてとらえる。(その際、headは

「いっ」にする)

- 02 こう【いっ】 [DLM] た {会議}

類例としては、「こうした」(「し」がhead)、「このような」(「ような」がhead)、「こういう」(「いう」がhead)など。

注:他コードとの比較におけるDLMの特徴

DLMは程度副詞で修飾できない。

DLMは主として体言修飾専用である。

注:DLMにならない連体詞

連体詞は原則としてDLMになるが、「小さな、大きな」のような属性規定の強いものはAVOである。

- 02 《小さな》 [AVO] {グループ}

注:後置修飾(01DLM)

本作業においては後置修飾は認めていないので後置修飾的なDLMは01で用言に付ける。

- 01 いい資料は【何】 [DLM] か {あり} ますか

cf. 【何】 かい {資料} はありますか

02DLM(何)(資料)

- 01 ご希望の場所は【どこ】 [DLM] か特に {あり} ますか

cf. 【どこ】 かご希望の {場所} は特にありますか

02DLM(どこ)(場所)

注：DLMとDGR

「一部の、全ての、一切の、すべての」は、DGR。

02 《一部》の [DGR] {学生}

「一部の学生は、」 = 「学生は一部...」の置き換えが可能で、かつ数量を規定する語だからDGRである。

下記の例は数量より指示性が問題になっているので DLM>DGR。

01 それから、もう一【人】 [DLM] 坂井教授にお {願い} する

注：優先コード

不特定限定詞(何か、他の)、疑問代名詞(どんな)などは普通DLMであるが、「どこの」のSPAのように、他に優先度の高いコードがあれば、そのコードを原則として優先させる。

[49] AVO (ATTRIBUTE VALUE OF OBJECT) (対象属性値)

定義：N1 + N2においてN1が属性値、N2が対象である場合。

また一般にN1がN2の種類を示す場合もAVOにする。

属性値であるか否かの判断は極めて難しいが、広義に取ってよい。

の 02 10、000【円】の {シングルルーム}
02 45【歳】の {教授}
02 【黒】の {スーツケース}
02 【A4】のコピー {用紙}

注：属性と考えるもの

温度、価格、長さ、広さ、高さ、重さ、大きさ、年齢、明るさ、色、形など。

注：AVO、ATT、OAT、VALの整理

対象を「水」、属性を「温度」、属性値を「20度」とした場合、

AVO

属性値+対象 20【度】の{水}

ATT

属性+対象 《温度》の[ATT]{水}

OAT

対象+属性 《水》の[OAT]{温度}

対象+属性値 《水》の[OAT]20{度}

VAL

属性値+属性 20《度》の[VAL]{温度}

注:AVOの例外

以下のような例はN1が広い意味での「種類」を示していると考えられるのでAVOにする。

1) 固有名詞の分断

02 【松下】の{電器}
(「松下電器」を分断していると考える)

02 【ATR】の{株式会社}
(「ATR株式会社」を分断していると考える)

2) 序数

02 3番【目】の{席}

02 5人【目】の{スピーカー}

3) 限定用法しかない形容名詞

02 【怪訝】な{顔}
(「顔が怪訝だ」とはいえない)

02 【惨憺】たる{結果}
(「結果が惨憺」とはいえない)

4) 修飾的な意味を持つ連体詞(DLMの注参照)

02 【大きな】 {会議}

5) 連体修飾の形をしていて03型にするとGAI(表層作業ではd)にしかならない形容詞、形容名詞。

02 【詳しい】 {こと}
(「ことが詳しい」とはいえない)

02 【忙しい】 {方}
(「方が忙しい」とはいえない)

02 ご【親切】なお {手紙}
(「お手紙がご親切だ」とはいえない)

6) 属性を表示する接尾辞(的、質、性、風、式、産など)を伴い、形容詞のような意味を持つ場合はAV0にする。

02 ラップトップ【式】の {コンピュータ}
02 クリップ【式】の {マイク}
02 開架【式】の {書庫}
02 民宿【風】の {ホテル}
02 アメリカ【製】の {機械}

7) 慣用的表現

02 【こと】の {次第}
02 【交通】の {便}
02 【鶴】の {一声}

8) その他種類を示す場合

02 【2HD】の {フロッピー}
02 【赤】の {ワイン}

注:種類などを示していてもAV0にしない例

AV0以外がつきそうな場合はその格を優先してかまわない。

TM系

- 02 3月《3日》の[TMA] {コース}
- 02 3日《間》の[TMD] {コース}
- 02 3月《3日》からの[TMA] {コース}

SP系

- 02 《日本》の[SPA] フランス {料理}
- 02 京都《中》の[SPR] {コース}
- 02 右《側》の[SPA] {コップ}

用言組み込み型(N2に用言性のある名詞が組み込まれている)

- 02 《個人》での[CND] 参加 {者}
- 02 《会議》への[RNG] 参加申し込み {書}
- 02 国際《化》[OBJ] の支持 {者}

前の要素(N1)に用言性がある場合

- 06 {確認} の[T00] 《手紙》
- 06 日本に {独特} の[OBJ] 《方法》
- 06 日本 {生まれ} の[OBJ] 《アメリカ人》

[50] ATT (ATTRIBUTE) (属性)

定義:N1 + N2においてN1が属性、N2が対象である場合。

属性であるか否かの判断は極めて難しいが、広義に取ってよい。

- の 02 4人【定員】の {寝室}
- 02 1週間ぐらいの【日程】の {ツアー}
- 02 2分の1の【サイズ】の {広告}
- 02 同様の発表論文【数】の国際 {学会}
- 02 大きな【サイズ】の {プロジェクト}

注:N1の前に属性値がたつことが多いが、(深層格はVAL)その属性値の部分は不定値(疑問詞など)であってもかまわない。

02 どれくらいの【規模】の {機器} ですか

02VAL (くらい)(規模)

02 どの程度の大き【さ】の {部屋} ですか

02VAL (程度)(さ)

02 どういう【種類】の {サマリー} ですか

02VAL (いう)(種類)

注:「属性」の認定

「名前」、「肩書」、「タイトル」等は簡単に数値化できる属性値をとらないが、一種の属性と考えてよい。そのため以下のようなものは「属性+対象」ととらえることができるのでATTになる。

02 「コンピュータ音楽」という【タイトル】の {ビデオ}

02 芝生ゆきという【名前】の通訳 {者}

02 特別会費という【名目】の {特典}

02 A T R の【名義】の銀行 {口座}

[51] OAT (OBJECT OF ATTRIBUTE) (属性対象)

定義:対象属性または対象属性値を示す格。以下、それぞれについて説明する。

1) 対象属性

定義:N1 + N2においてN1が対象、N2が属性である場合。

N1はN2という属性が帰属する実体であるものとする。

また、OAT格をつけるのはN1が抽象名でない場合である。(注参照)

属性であるか否かの判断は極めて難しいが、広義に取ってよい。

02 【部屋】の広 {さ}

02 【スクリーン】の {サイズ}

02 【部屋】の収容 {人員}

02 【ランチ】の {料金}

02 【会議】の {規模}

02 【ホテル】の電話 {番号}

02 参加【者】の {数}

02 【雑誌】の発行 {部数}

注:「属性」の認定

「名前」、「肩書」、「タイトル」等は簡単に数値化できる属性値をとらないが、一種の属性と考えてよい。そのため以下のようなものは「対象+属性」ととらえることができるのでOATになる。

02 【ホテル】の {名前}
02 【IBM】の {住所}
02 参加【者】の {国籍}
02 【先生】の連絡 {場所}
02 【映像】の {質}
02 【日程】の空き {具合}

2) 対象属性値

定義:N1 + N2においてN1が対象、N2が属性値である。

N1はN2という属性値が帰属する実体であるものとする。

また、OAT格をつけるのはN1が抽象名でない場合である。(注参照)
属性値であるか否かの判断は極めて難しいが、広義に取ってよい。

02 【料亭】の {瓢亭}
(料亭の名前が「瓢亭」であるということ)

02 スライド【機】の {XB275}

注:OATとPOS

N1 + N2において

- 1) N2の意味が抽象的で広くて、属性とは考えにくいものはPOSとする。
基本的にPOSの範囲は非常に広く考えられており、N2が属性、あるいは属性値かどうか判断のつきにくいときはOATよりPOSを優先する(cf. POS)。

02 《講義》の [POS] {内容}
02 《講義》の [POS] {目的}

- 2) N1が抽象名であるときはPOSとする。

02 《責任》の [POS] 大き {さ}

[52] VAL (ATTRIBUTE VALUE) (属性値)

定義: N1 + N2においてN1が属性値、N2が属性である場合。

属性であるか否かの判断は極めて難しいが、広義に取ってよい。

- の 02 一番【上】の {ランク}
- 02 500【ポンド】ぐらいの {重量}
- 02 50000【円】の講師 {料}
- 02 40000【円】の {予算}
- 02 【IEEE】の {名前} を入れてもよい
- 02 会議が【行なえる】だけの {人数}
- 02 10000円を【割る】ぐらいの {価格}
- 02 これ【ぐらい】の {値段}

という 02 一人85000【円】という {額}

- ゼロ 02 4分の【2】 {サイズ}
- 02 【大きな】 {サイズ} のプロジェクト

注: 属性値の部分は不定値(疑問詞など)であってもかまわない。

- 02 どれ【くらい】の {規模} の機器になりますか
- 02 どの【程度】の大き {さ} の部屋でしょうか
- 02 どう【いう】 {種類} のサマリーなんですか
- 02 どの【ような】 {フォーマット} の申し込み用紙を使うのですか

[53] MES (METAPHORAL SUBSTANCE) (比喩実体)

定義: 実体+比喩を示す格。

置き換え可能な形式 <N2のようなN1>

- の 02 【人】の {波}
- 02 【荷物】の {山}
- 02 【火】の {海}

[54] MET (METAPHOR) (比喩)

定義:比喩+実体を示す格。

置き換え可能な形式 <N1のようなN2>

- の 02 【黒山】の {人だかり}
- 02 【炎】の {人}

[55] GAI (GAIKAKU) (外格)

定義:03または06において表われ、連体修飾部(03では埋め込み文)の用言(06では用言性のある名詞)の格を成さない連体被修飾語句。

- 1) 連体被修飾語句が連体修飾部の格を成さないため、両者の間の意味関係の理解に「推論」が必要なもの。英語に訳しにくい。

- 03 登録手続きを {とっ} た【結果】
- 03 企業の機密情報を {漏らし} た【罪】

- 2) もし特定化されれば、格となりうる普通名詞、および形式名詞

- 03 会議を {開催} する【時期】

「時期に会議を開催する」とはいえないが、「この時期」というように「時期」を特定化することで03型で「この時期(TMA)に会議を開催する」となる

- 03 {研究発表} なさる【方】

「方が研究発表なさる」とはいえないが、「この方」というように「方」を特定化することで03型で「この方(AGT)が研究発表なさる」となる

- 03 できるだけやすく {いける} 【方法】
- 03 機械がデータを {処理} する【速度】
- 03 トラブルを {生ん} だ【原因】
- 03 後進を {指導} する【立場】
- 03 会議を {開催} する【時期】

- 03 {書く} 【もの】を貸してください
(「もの」は「道具」の意味なので特定化されれば格になる)
- 03 {発表} する【こと】が何もない
(「こと」は「テーマ」の意味なので特定化されれば格になる)
- 03 委員会の席上で話さ {れ} た【こと】を私にも教えてください
(「こと」は「内容」の意味なので特定化されれば格になる)
- 06 参加をご {希望} の【方】
- 06 {降車} の【場所】
- 06 {受付} の【とき】

3) 接続助詞的な名詞

接続助詞的な名詞はGAIとする。

- 03 特別な事情が {ない} 【限り】
- 03 内容を良く {検討} した【上】で...
- 03 あれこれ {迷っ} た【末】
- 03 コールフォーパーが {届き} 【次第】
- 03 日本に {いく} 【度】に...
- 03 コンピュータを {研究} した【おかげ】で...
- 03 会議に {参加} する【ため】に...
- 03 海外旅行を {し} た【場合】

4) modality 的な GAI

- 03 もうとっくに {払っ} た【はず】です
- 03 それではお {いで} になれない【わけ】ですね

注:GAIにあたるものは表層作業ではdになる

注:03GAI型で連体修飾部の用言に作業対象となる助動詞、補助動詞がついている場合には、連体被修飾語句のかけ先はその助動詞、補助動詞とする。

[56] CMP (COMPLIMENTIZER) (補文標識)

定義:埋め込み文を名詞化する形式名詞。

名詞化の機能(文法的機能)以外に、ほとんど語彙的意味を持たない

「こと、の、ほう」などがCMPになる。英語では名詞節をつくる接続詞の thatにあたることが多い。

- 03 会議に {参加} する【こと】を考慮している
- 03 座長を {引き受ける} 【の】をお断りしなければなりません
- 03 資料をお {届け} する【の】に2週間かかります
- 03 早めに {出発} した【方(ほう)】がよいでしょう

注: CMPにあたる形式名詞はたとえ特定化しても連体修飾部の格にはならない。
「会議に参加することを考慮している」の「こと」をたとえ「そのこと」と特定化しても、「そのこと」と「参加」との間には何の格関係も存在しない。

注: 以下の例は modality の可能性もあるが(「modality的なGAI」参照)、CMPとする。

- 03 それは {聞い} た【こと】がある
(上の「こと」は経験を表わす)
- 03 わざわざ {行く} 【こと】はない
(上の「こと」は必要を表わす)

注: CMPにあたるものは表層作業では d になる

[57] PMC (PSEUDO-COMPLIMENTIZER) (疑似補文標識)

定義: 名詞を延長する形式名詞など。

1) 名詞句の延長 06PMC

- 06 {こちら} の【方(ほう)】が良い
- 06 事務 {局} の【方(かた)】にお聞きしたいのですが...
- 06 ドルになおすと600 {ドル} という【こと】になります
- 06 その {辺} の【ところ】はどうなっていますか
- 06 開会 {式} の【こと】についてお聞きしたい

- 06 この {程度} の【もの】でよいのですか
06 {今} の【ところ】もう質問はありません
06 {当分} の【間】安静にしなければいけない
06 事務 {局} の【側】で準備します

注:PMCの特徴はある種の「冗長性」である。

例えば、「ドルになおすと600ドルになります」といえるのに「こと」を入れて引き延ばして「ドルになおすと600ドルということになります」とうようなことである。

注:準体助詞の「の」

名詞類+準体助詞「の」の場合、深層作業では06PMCになるが、表層作業では名詞連鎖とみなしたので係受け関係を記述しなかった。

これは私のです

深層作業 06PMC(の)(私)
表層作業 記述なし

明日のはもうそろっていますか

深層作業 06PMC(の)(明日)
表層作業 記述なし

自分専用のを用意します

深層作業 06PMC(の)(専用)
表層作業 記述なし

注:作業途中よりPMCは06に限るものとした。

注:深層作業では、N1 + N2においてPMCにあたるものはたとえN1に用言性がなくとも06として作業した。ただし、表層作業では02になることが多い。

[58] INS (INSERTION) (挿入)

記述上の問題のため、使用しない。

[59] PRL (PARALLEL) (並列)

定義:節と節の並列関係、同時性、対比、継起、列挙等を表出する。この場合、相互の意味的關係は、等位關係であり、從属關係ではない。

- 04 国際会議に【出席】し、他の研究者との交流を{持つ}
04 大阪空港まで飛行機で【飛び】、そこから空港バスに
{乗り換える}
04 JTBに【連絡】して、予約を{入れ}てみます
04 25日に東京に【着き】まして、27日に大阪に{移動}
します
04 書類に【捺印】して、こちらに{返送}してください
04 内容を十分【検討】しましてあらためてお{返事}致します
04 ホテルに【つい】てすぐにチェックインを済ま{せ}ました
04 ホテルは駅前に【あり】ますし、すぐに{見}つかります

05 私は分科会に【で】て、妻はレディースプログラムに{参加}する
05 夜にお電話【いただく】と確実に{いる}と思います。
05 当日受付に【参り】ますが、先に諸手続きを済ましておいて
{いただけ}ますか
05 先日書類を【送り】ましたが宛先不明で{戻}てきました
05 当日の夜パーティーを【開き】ますが、お{いで}になりま
せんか
05 先程も【申し上げ】ましたが、詳しいことはまだ何も{決}っ
ておりません
05 先生がご出席なさると【思っ】ておりましたので、おいでになれ
ないのは誠に{残念}です
05 会社が登録料を【払い】、15人が{参加}します
05 講演内容をテープに【と}つて、あとで学生にきか{せ}ます

注:三つ以上の節が並列關係にある場合、順に二つずつ記述していく。

新大阪で新幹線を降りて、JRで大阪駅に行き、環状線に乗り換え、大阪城公園駅で下車し、あとは歩きます

04PRL(降り)(行き)

04PRL(行き)(乗り換え)

04PRL(乗り換え)(下車)

04PRL(下車)(歩き)

注:PRLの文型は原則として04、05であるが品詞分類の都合上文型01で扱うことがある。

5月1日のご【出発】で何時ご{帰国}なさいますか

「出発(名詞 1)」と「帰国(サ変名詞 5)」の関係なので文型01で扱う。

金額の【確認】ならびに{署名}した上で郵送する

「確認(名詞 1)」と「署名(サ変名詞 5)」の関係なので文型01で扱う。

注:PRLの文型は原則として04、05であるが品詞分類の都合上文型02で扱うことがある。

28日【着】の30日{出発}に変更してよろしいですね

「着(名詞 1)」と「出発(名詞 1)」の関係なので文型02で扱う。

[60] ORR (OR) (選言)

定義:二つ以上の項から一つを選択する場合に使う。

- 04 会議に【参加】するか{どう}か分からない
- 04 【行く】か{行か}ぬかをこれから考えます
- 04 【キャンセル】なさるか{否}かを早く決めてください

- 05 小さなグループに【分ける】のですか、それとも全体で
{行なわ}れるのですか
- 05 銀行振込みにすれば【良い】のでしょうか、それとも当日持参
しても{かまわ}ないのですか
- 05 英語の通訳が【つく】のですか、あるいは日本語だけ{な}
のでしょうか
- 05 私どもで準備すべき【な】のでしょうか、あるいはそちらで手配
して{いただける}のですか

[61] CNE (CONNECTIVE) (接続)

定義:文、節等を結ぶ接続詞的な機能。

- 02 レディースプログラムでは京都のお寺、【例えば】 {金閣寺} を訪ねるのですか
- 04 希望は【特に】 {あり} ません
- 04 【とにかく】先に書類を {送っ} てください
- 04 それで【むしろ】 {良かっ} た
- 05 【例えば】私の代わりに助手が参加するかも {しれ} ません
- 05 【かえって】その方が高く {つき} ます
- 05 【せめて】何とかして参加費の一部だけでも返却して {いただけ} ませんか

注:CNEには取立ての要素があるため、文型01の場合は係助詞「は」がつきCNE/TOPになることが多い。

注:他の格と区別してCNEであるか否かを決定する際、文脈によることが多い。

それは困った

「それ」が示すものがはっきりしていれば、(That's too bad.)010BJ/TOPになる。

「それ」が示すものがはっきりしておらず、「それは」が間投詞的に使われていけば01CNE/TOPになる。

以下類例。

それは大変でしたね
これはありがたい
これは失礼致しました

注:04CNEと05CNE

CNEの場合特に04と05の区別が曖昧であるが、接続詞的傾向が強い場合(文頭にある場合など)は05にし、連用修飾の傾向が強い場合(文頭になく文中の動詞に近い位置にある場合)は04にする。

[62] OTH (OTHERS) (その他)

定義:どの格係受け関係にも属さないものに付与する。ただし、できるだけ付与しないようにする。

- ゼロ 01 先程申しました【通り】、家族同伴で参ります
- 04 【どうも】 {ありがとう}
【どうも】 {失礼} 致します
【宜しく】お {願い} 致します
【もう】 {いらっしゃい} ました
【すでに】 {払い込み} ました
【まだ】 {でき} ません
- 05 御【存知】のように当社はコンピュータのニュースを専門に扱う雑誌社 {です}

参考文献

- [1]江原、小倉、篠崎、森元、樽松:「電話またはキーボードを介した対話に基づく対話データベースA D Dの構築」, 情報処理学会論文誌, Vol. 33, No. 4 (1992)
- [2]江原、井ノ上、幸山、長谷川、庄山、森元:「A T R対話データベースの内容」 A T RテクニカルレポートTR-I-0186(1990)
- [3]篠崎、水野、小倉、吉元:「形態素情報利用解説書」, A T RテクニカルレポートTR-I-0077(1989)
- [4]篠崎、小倉、森元:「言語データベース作成のための日英対訳対応付け」, A T RテクニカルレポートTR-I-0043(1988)
- [5]幸山、衛藤:「日英対訳対応データの仕様」, A T RテクニカルレポートTR-I-0152(1990)
- [6]井ノ上、小倉、森元:「言語データベース用格・係り受け意味体系」, A T RテクニカルレポートTR-I-0029(1988)